

フィリピン国

ダバオ地域総合開発計画調査

事前調査報告書


平成9年6月

国際協力

118  
34  
PFF  
LIBRARY

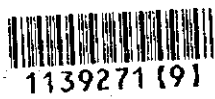
# フィリピン国 ダバオ地域総合開発計画調査 事前調査報告書

平成9年6月

JICA LIBRARY  
  
J 1139271 (9)

## 国際協力事業団 基礎調査

基一
JR
97-3



1139271 (9)

## 序文

日本国政府は、フィリピン政府の要請に基づき、同国のダバオ地域総合開発計画調査を実施することを決定し、当事業団が同調査を実施することとなりました。

当事業団は、同調査の実施に先立ち、平成9年4月2日から4月23日までの22日間にわたり、当事業団国際協力小山伸広専門員を団長とする事前調査団（I/A協議チーム）をフィリピン国に派遣しました。

同調査団は、本件要請背景・内容の確認、フィリピン側関係者の意向の聴取、対象地域の現地踏査を行うとともに、フィリピン国政府関係機関との協議を行い、本格調査に関する実施細則（I/A）に署名しました。

本報告書は、引き続き予定している本格調査の円滑かつ効果的な実施に資することを目的として、事前調査の結果と本格調査の方向性を取りまとめたものです。

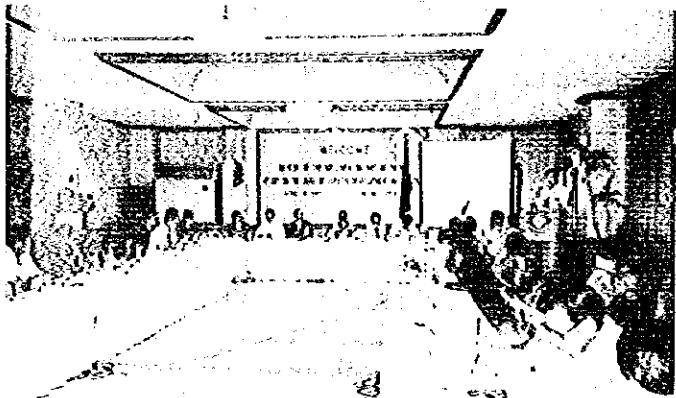
終わりに、本件調査にご協力とご支援をいただいた関係各位に対し、心より感謝申し上げます。

平成9年6月

国際協力事業団  
理事 木島輝夫



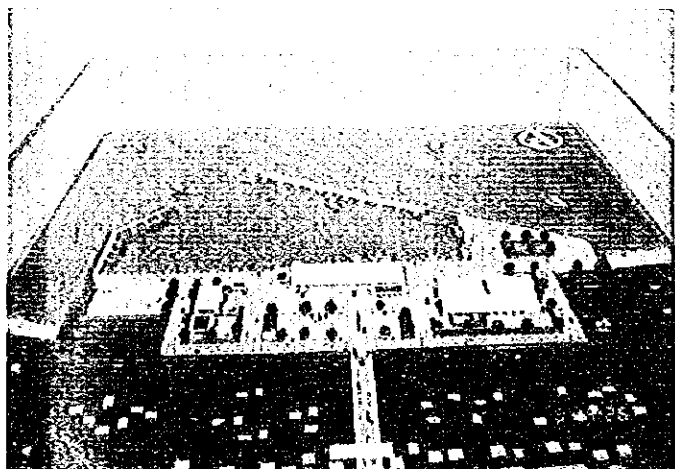
調査対象地域



・ I/Aのサインングセレモニー



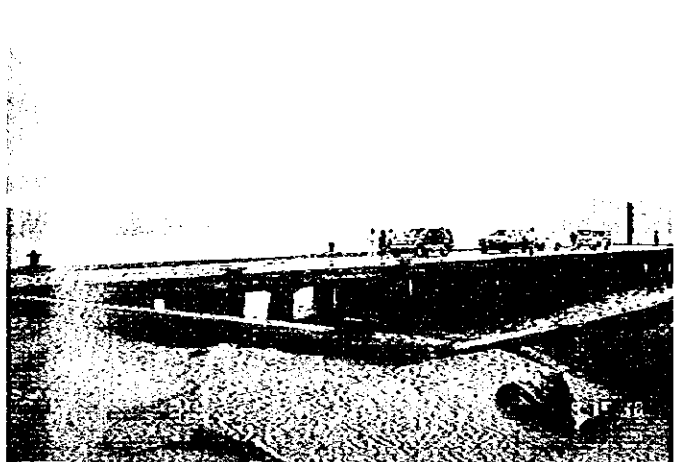
・ 経済特別区庁 (PEZA) 認定による民間企業の工業団地造成地



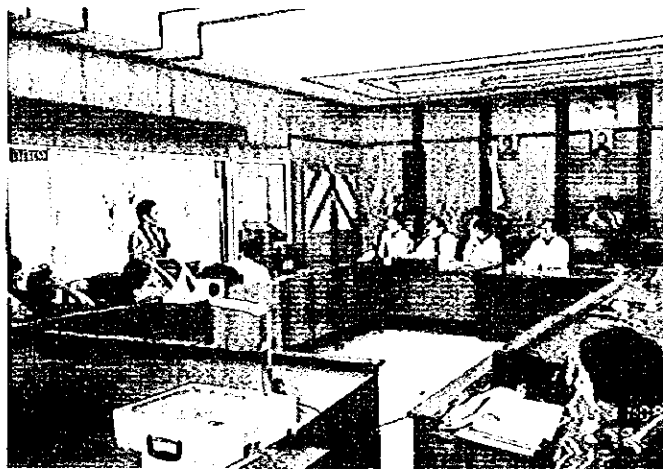
・ ダバオ漁港 (OECPローンにより建設中)



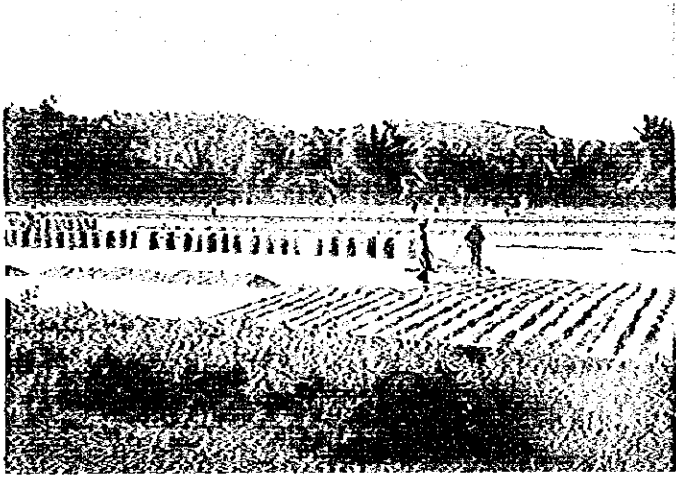
・ ダバオオリエンタル州州都マテイ



・ マテイ港



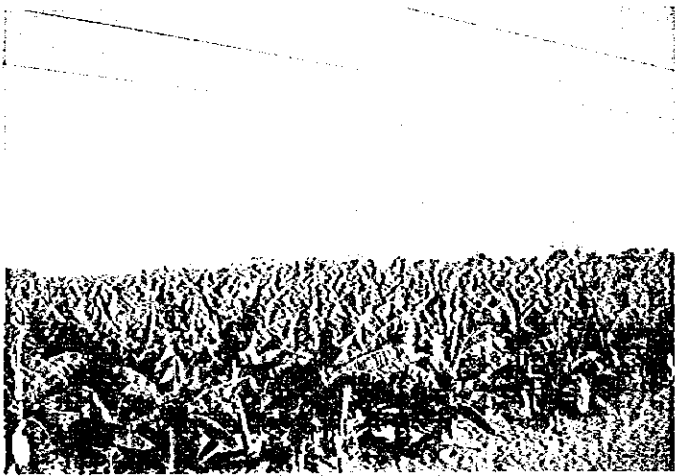
・ ダバオ州との協議



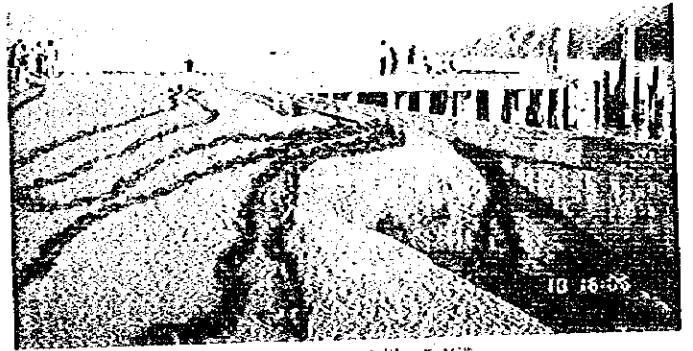
・ダバオ州の精米所



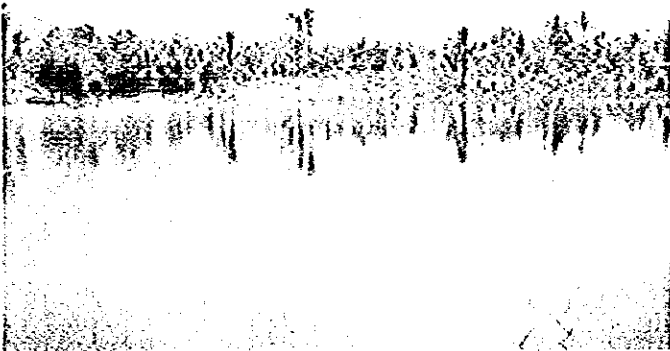
・ダバオデルスール州との協議



・ダバオデルスール州のバナナプランテーション



・ダバオデルスール州マラグ港



・ダバオデルスール州が農業・観光開発の拠点と考えているカバタガン



・ダバオデルスール州のマングローブ植林プロジェクト



・小規模農家（3～5ha）における永年性作物と米の組み合わせによる作付方式（手前：米、奥：ココナッツとバナナの間作）



・小規模農家の米とバナナの組み合わせによる作付方法  
・米の植段が下がるとバナナに転換するという



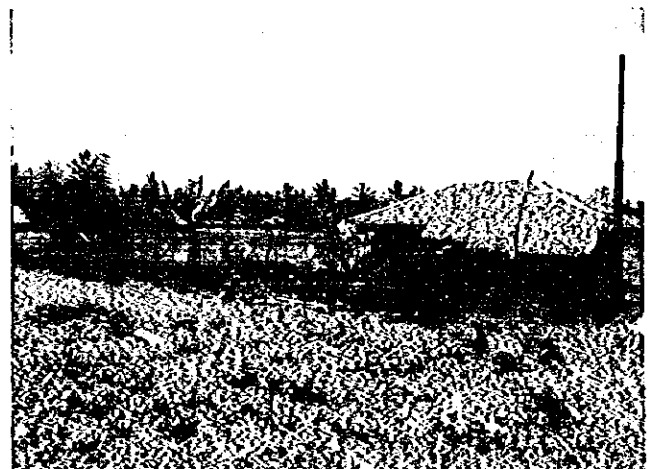
・小規模米作農家の稲の作付状況  
・この農家でもココナッツとバナナの組み合わせによる営農形態である  
・稲作耕地は不形状である



・田植前の状況（しろかき後）



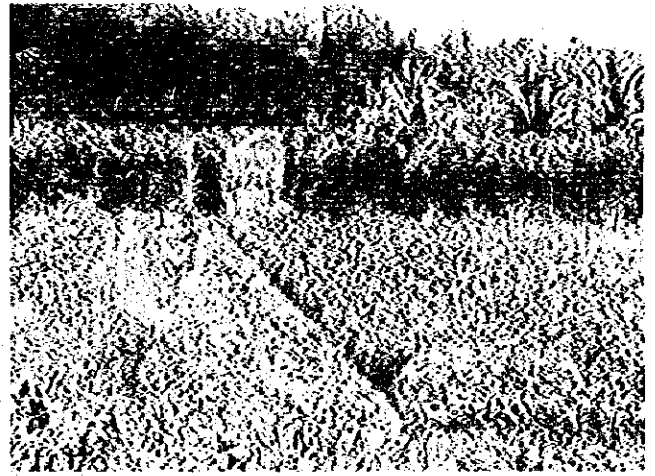
・水田と隣接した淡水漁養殖池



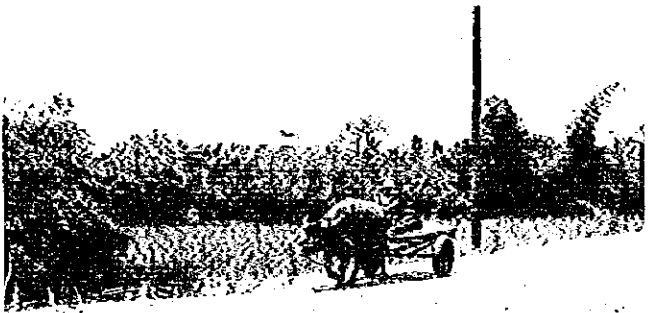
・一般農家の形状、集落は散居状態が多い  
・電気は通っているが、水道はない  
・手前が自給用の畑地（イモ）、中央は水田とトウモロコシ、奥はココナッツ



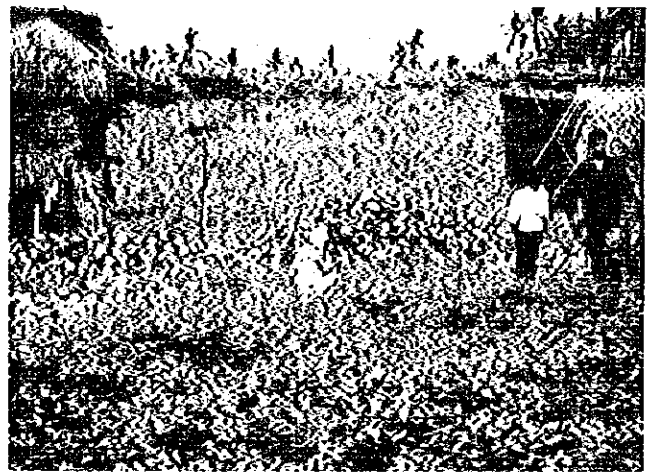
・小規模農家のバナナ栽培  
成長が不揃いで、品質も不統一なため域内または国内市場向け栽培である



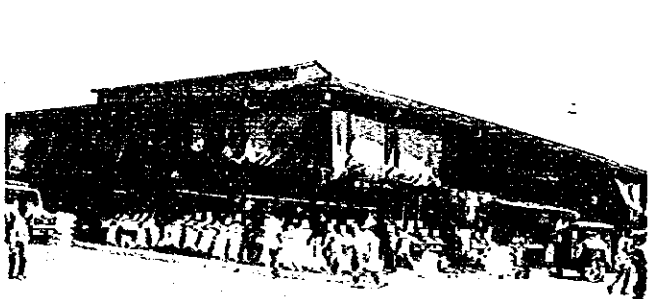
・小規模畑作農家  
・イモ、マメ、トウモロコシの単年性作物とバナナ、マンゴーの永年性作物の組み合わせが一般的



・農道は土道であり、カラバオ（水牛）は、主要な運搬手段である

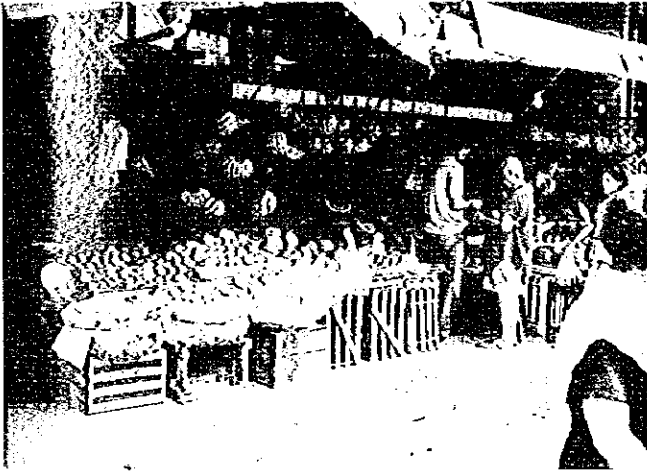


・一般農家でのコブラの加工風景  
・ココナッツはプランテーション方式に比べても品質的に差異がないため小農の重要な換金作物となっている

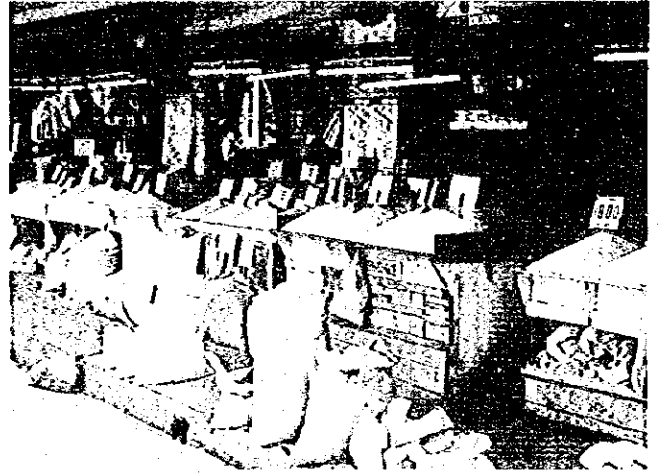


・中央市場（卸売と小売が混在化した市場となっている）





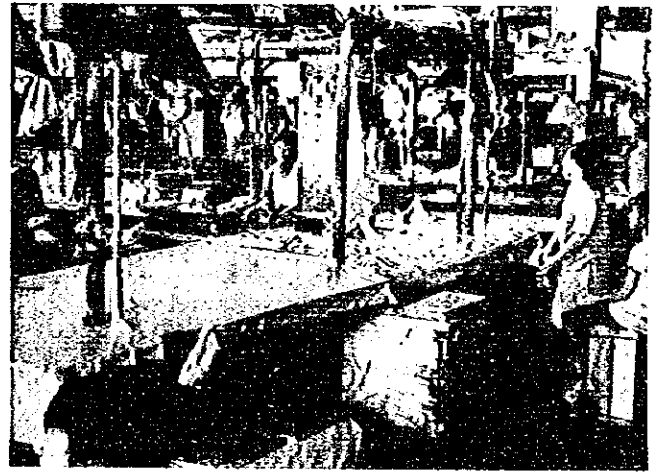
城内の市場でもバナナ、マンゴー、スイカ、メロン等種類は豊富である



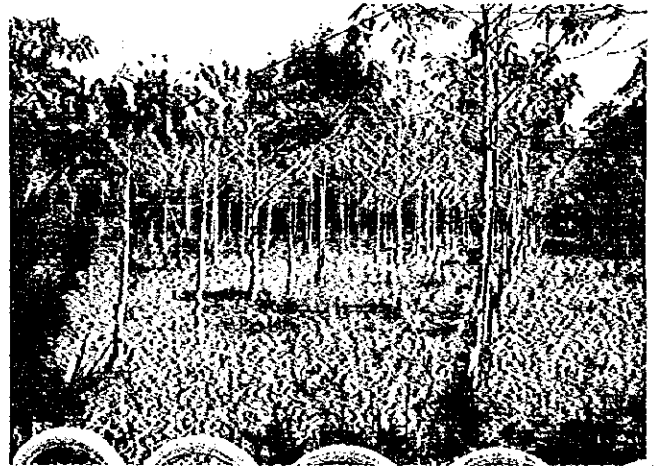
米は主食であるため市場でも中央部分を占めている



・海産物の販売も盛んにおこなわれている



・農地保全プロジェクト (マンゴー、パイン、トウモロコシ等永年性と単結性の組合わせによる農地の保全と換金性作物の導入による農地の有効利用)



・林業プロジェクト

# フィリピン共和国 ダバオ地域総合開発計画調査

## 事前調査報告書目次

序文

現地調査写真

略語表

第1章 事前調査の概要	1
1-1 調査要請背景	1
1-2 事前調査団派遣の目的	1
1-3 事前調査団の構成	1
1-4 調査行程	3
1-5 I/A協議概要	4
第2章 フィリピンの国家・地域開発の現状と計画	6
2-1 フィリピン	6
2-1-1 社会経済概況	6
2-1-2 国家開発計画	7
2-2 ミンダナオ	11
2-2-1 開発概況	11
2-2-2 ミンダナオ開発計画	15
2-3 リージョン XI (南部ミンダナオ)	20
2-3-1 開発概況	20
2-3-2 南部ミンダナオ中期開発計画及び更新計画	20
2-4 地方分権化の現状と今後の展望	22
2-4-1 「地方自治法」の意義	22
2-4-2 地方開発行政	22
2-4-3 地方開発財政	25
第3章 対象地域(DIDP)の概況	32
3-1 一般概況	32
3-2 自然条件	34
3-2-1 気象	34
3-2-2 地形地質	34
3-2-3 河川流域	35
3-2-4 植生・土地利用	36
3-2-5 人口・民族	38
3-3 地域開発構想(DIDP)と1市3州の開発計画	40
3-3-1 DIDP開発構想と開発体制	40

3-3-2	ダバオ沿岸地域開発 ADZ 構想	41
3-3-3	構成1市・3州の開発計画	43
3-4	地域産業の現状と課題	45
3-4-1	農業	45
1.	概況	45
2.	農地面積及び土地所有状況	45
3.	主要農産物の生産動向	47
4.	アグロ・インダストリー開発	51
5.	農業開発の方向と制約要因	52
6.	本格調査実施上の留意点	53
3-4-2	林業	67
1.	森林資源	67
2.	木材生産	67
3.	林業開発計画	68
3-4-3	水産業	71
1.	水産業の現状	71
2.	水産資源	72
3.	漁業開発方針	72
4.	漁業開発上の留意点	73
3-4-4	鉱工業	73
1.	鉱物資源と鉱業	73
2.	工業	74
3-4-5	観光	76
3-4-6	貿易	78
3-5	社会開発	79
3-5-1	社会開発の現状	79
3-5-2	社会開発計画	82
3-6	社会経済基盤	86
3-6-1	社会経済基盤の現状	86
3-6-2	社会経済基盤の開発計画	89
3-7	地方都市開発	96
3-7-1	都市化の拡大	96
3-7-2	地方都市開発の戦略	97
3-7-3	都市環境の現状	98
3-7-4	都市開発の課題	100
3-8	地方組織	101
3-8-1	地方行政組織	101
3-8-2	住民・民間組織	102
3-9	援助動向	102
3-9-1	全体援助動向・傾向	102

3-9-2	国際機関・他のドナー国の援助動向	103
3-9-3	日本国のミンダナオに対する最近の援助動向	104
3-10	開発の制約条件とポテンシャル	105
3-11	DIDP 地域総合開発計画の重要課題	106
第4章	環境	109
4-1	フィリピンの環境の概要と管理	109
4-1-1	環境問題の概要	109
4-1-2	環境行政	109
4-1-3	環境法体系	110
4-2	調査対象地域の環境	112
4-2-1	自治体別環境の状況と取り組み	112
4-2-2	自然保護区	114
4-2-3	環境保全事業	115
4-3	スクリーニング及びスコーピング	116
4-3-1	プロジェクト概要	116
4-3-2	プロジェクトの立地環境	117
4-3-3	スクリーニング	118
4-3-4	スコーピング	119
4-3-5	総合評価	120
4-4	環境分野に対して配慮すべき事項	121
第5章	本格調査の概要	122
5-1	本格調査の基本的な考え方	122
5-1-1	調査の要請背景についての理解	122
5-1-2	調査の要請主体についての理解	122
5-1-3	調査を構成する開発コンセプト	123
5-2	本格調査の内容	129
5-2-1	調査目的	129
5-2-2	調査対象地域	130
5-2-3	調査内容	130
5-3	本格調査の実施体制	131
5-3-1	フィリピン側の調査実施体制	132
5-3-2	日本側の調査実施体制(案)	133
5-3-3	調査工程(案)	136
5-4	本格調査の留意事項	139
5-4-1	バランスのとれた開発	139
5-4-2	参加型アプローチによるオーナーシップの確立	139
5-4-3	地域総合開発計画調査に関する技術移転	140
5-4-4	DIDP の能力強化と体制整備	140

6-4-5	社会簡易調査	140
5-4-6	選挙	140
5-4-7	環境配慮	141
5-4-8	実施可能性を高めたマスタープラン作り	141
5-4-9	他の JICA 事業との連携	141
5-4-10	国際援助協調	142
5-4-11	計画実現に向けた適時・適切なフォローアップ	142
5-4-12	潜在投資家への DIDP 広報	142

#### 付属資料

1. 要請書 (TOR)
2. Implementing Arrangement
3. Minutes of Meeting
4. 質問書
5. BHN 調査票
6. 主要面談者リスト
7. 収集資料リスト

## 略語表

ADB	: Asian Development Bank
A&D	: Alainable and Disposable
ADZ	: Area Development Zone
AFTA	: ASEAN Free Trade Area
ARMM	: Autonomous Regional of Muslim Mindanao
ASEAN	: Association of Southeast Asian Nations
BAS	: Bureau of Agricultural Statistics
BIDFO	: Branga Integrated Development Foundation
BIMP-EAGA	: Brunei, Indonesia, Malaysia and the Philippines-East ASEAN Growth Area
BOI	: Bureau of Investment
BOT	: Build Operate Transfer
CAID	: Countryside Agri-Insustrial Development
CARP	: Comprehensive Agrarian Reform Program
CC	: Component City
CENRO	: Community Environmental and Resources Office
CIC	: Crisis Intervention Center
CPPAP	: Conservation of Priority Protected Areas Project
CSC	: Certificate Stewardship Contract
DA	: Department of Agriculture
DANECO	: Davao del Norte Electric Cooperative
DECS	: Department of Education, Culture and Sports
DENR	: Department of Environment and Natural Resources
DIDP	: Davao Integrated Development Program
DILG	: Department of Interior and Local Government
DOH	: Department of Health
DOLE	: Department of Labor and Employment
DOTC	: Department of Transport and Communication
DPWH	: Department of Public Works and Highways
DTI	: Department Trade and Industry
EAGA	: East ASEAN Growth Area
ECC	: Environmental Compliance Certificate
ECD	: Enterprise in Community Development
ECP	: Environmentally Critical Project
EMB	: Environmental Management Bureau
ENRO	: Environment and Natural Resources Office
EGC	: Economic Growth Cluster
EGF	: Environmental Guarantee Fund
EIA	: Environmental Impact Assessment
EIS	: Environmental Impact Statement
FIDA	: Fiber Development Authority
F/S	: Feasibility Study
GAD	: Gender and Development
GATT	: General Agreement on Tariffs and Trade
GBEs	: Grading - Baling Establishments
GDP	: Gross Domestic Product
GEM	: Growth with Equity in Mindanao
GIS	: Geographic Information System

GNP	: Gross National Product
GPEP	: Grains Production Enhancement Program
GRDP	: Gross Regional Domestic Product ??
HKI	: Huggong Kinaiyahan, Inc.
HUC	: Highly Urbanized City
ICC	: Independent Component City
IEE	: Initial Environmental Examination
IPAS	: Integrated Protected Areas System
IRA	: Internal Revenue Allocation
ISF	: Integrated Social Forest
JETRO	: Japan External Trade Organization
JICA	: Japan International Cooperation Agency
KCCDP	: Key Commercial Corps Development Program
KFDP	: Key Fisheries Development Program
KLDP	: Key Livestock Development Program
KAPs	: Key Production Areas
LOC	: Local Development Council
LGC	: Local Government Code
LGU	: Local Government Unit
MBC	: Mindanao Business Council
MBN	: Minimum Basic Needs
MDP	: Mindanao Development Project
MEDECo	: Mindanao Economic Development Council
NAPOCOR	: National Power Corporation
NSB	: National Statistical Bureau
NEDA	: National Economic and Development Authority
NGO	: Non Governmental Organization
NHA	: National Housing Authority
NIPA	: NGOs for Integrated Protected Areas
NIPAS	: National Integrated Protected Areas System
NIC	: Newly Industry Country
NPC	: National Power Cooperation
OECF	: Overseas Economic Cooperation Fund
PAIC	: Provincial Agri-Industrial Center
PAWB	: Protected Area and Wildlife Bureau
PD	: Project Description
PEZA	: Philippine Economic Zone Authority
PENRO	: Provincial Environment and Natural Resources Office
PILTEL	: Philippine Telephone Corporation
PLDT	: Philippine Long Distance Telephone
PMO	: Project Management Office
PO	: People's Organization
PPFP	: Provincial Physical Framework Plan
PSSD	: Philippine Strategy for Sustainable Development
PT&T	: Philippine Telephone and Telegraph Company
PVO	: Private Voluntary Organaization
RAIC	: Regional Agri-Industrial Center
R&D	: Research and Development
RDC	: Regional Development Council
RDGP	: Regional Domestic Gross Product

<b>SALT</b>	: Sloping Agricultural Land Technology
<b>SOCSARGEN</b>	: South Cotabato, Sarangani and General Santos City
<b>SPAMAST</b>	: Southern Philippines Agri-Business Marine and Aquatic School of Technology
<b>SRA</b>	: Social Reform Agenda
<b>SWOT</b>	: Strength, Weakness, Opportunity, Threat
<b>TADI</b>	: T'boli Agri-Industrial Development Incorporated
<b>TESDA</b>	: Technical Education and Skills Development Authority
<b>TRIAD</b>	: Three Ridges Integrated Area Development
<b>USAID</b>	: United States Agency for International Development
<b>WTO</b>	: World Trade Organization



## 第1章 事前調査の概要

### 1-1 調査要請背景

- (1) フィリピン中期国家開発計画（1993-98）では、開発目標として、1. 貧困の緩和、2. 不平等の是正、3. 生産的雇用の増大、4. 持続的な経済成長をあげている。このため、第二の面積を有し、可耕地（19,347平方Km、全国の約37%）も広く、開発ポテンシャルが高いといわれながら、人口が少なく（全国の約23%）開発が遅れた地域となっている（GDP配分19.1%）ミンダナオ島の開発は、政府の優先課題となっている。
- (2) 今回要請越した4地方自治体を含む第II地域は、ミンダナオ島において最も経済活動が活発であり、ミンダナオ開発の主要拠点の一つとなることが期待されている。同地域の開発計画（南部ミンダナオ開発計画、1993-98）においては、ダバオ湾に面する4地方自治体の地区をダバオ統合経済開発区（Davao Integrated Development area）として位置づけ、ダバオ市を中心に、同地域開発の2大戦略であるアグロインダストリー開発、東ASEAN成長圏構想(EAGA)にそった開発を目指している。
- (3) 一方、比国では、1991年に地方自治体法が施行され、地方分権化が本格化し、各自治体が各々開発計画を策定し実行していくことが求められている。しかしながら、開発を行っていくための財政、技術、組織、政策立案、運営等の各能力の不足から多くの混乱を生み出し、一刻も早く自立した地方自治を確立する必要が出ている。
- (4) 以上のような流れを受け、ダバオ市、ダバオ州、ダバオオリエンタル州、ダバオデルスール州は、ダバオ統合経済開発プログラム（Davao Integrated Development Program）を組織し、農業を主導産業とした産業振興、貧困対策、インフラ整備、環境配慮、近隣諸国との輸出振興等の各分野に配慮を行い均衡がとれたダバオ地区の開発を推進するために必要な地域総合開発計画の策定に係る開発調査の要請を行ったものである。

### 1-2 調査団派遣の目的

フィリピン、ミンダナオ島ダバオ地区（ダバオ市、ダバオ州、ダバオオリエンタル州、ダバオデルスール州、総面積：19.67千平方km、総人口：2,540千人（90年現在））を対象に、西暦2016年（案）を目標年次とした地域総合開発計画（M/P）調査を実施するための実施細則（Implementing Arrangement=I/A）協議及び調査サイトの現状を把握するために必要な情報収集、現地踏査を実施することを目的とする。

### 1-3 調査団の構成

1 総括	小山伸広	国際協力事業団国際協力専門員
2 地方都市開発計画	鈴木正彦	国際協力事業団国際協力専門員
3 調査企画	岩崎英二	国際協力事業団基礎調査部 基礎調査第一課

- |             |      |                   |
|-------------|------|-------------------|
| 4 地域計画      | 田中健次 | 八千代エンジニアリング (株)   |
| 5 農業計画      | 溝辺哲男 | システム科学コンサルタント (株) |
| 6 環境/土地利用計画 | 西谷光生 | 日本技研 (株)          |

1-4 調査行程

	日程	行程
1	4月1日(火)	(岩崎) ジャカルタ (PR536) → マニラ、JICA事務所打ち合わせ
2	4月2日(水)	(鈴木、岩崎) USAIDとの協議 (上記以外の団員) 東京 (JL741) → マニラ 日本大使館、JICA、OECF表敬訪問
3	4月3日(木)	NEDA, 地方自治内務省表敬訪問、協議 ADB、Ausaidとの協議
4	4月4日(金)	マニラ(PR811) → ダバオ 日本領事館表敬訪問 NEDA第11地域事務所、Davao Integrated Development Programとの協議
5	4月5日(土)	NEDA第11地域事務局長、ミンダナオ開発評議会、USAID/GEM7プロジェクトとの協議 現地調査 ・工業団地造成地区 (フィリピン輸出地区庁 (PEZA) がダバオで 初めて認定したプロジェクト) ・公共市場 ・ダバオ旧港 ・市営バスターミナル ・ダバオ水道区井戸掘削現場
6	4月6日(日)	アヤラ第11地域開発局議長との協議 ダバオ市開発局との協議 現地調査 ・3尾根総合開発計画 (Three Ridges Integrated Area Development) ・ダバオ市漁港
7	4月7日(月)	ダバオ市市長表敬訪問 ダバオ市開発局、NEDA第11地域事務所及びDavao Integrated Development Programとの協議 ダバオ投資促進センターとの協議
8	4月8日(火)	ダバオ → マティ (Mati) ダバオオリエンタル州知事表敬訪問、州開発局等との協議、 現地調査 ・観光地 (ダイカン (Daican) 公衆海水浴場) ・マティ空港 ・農業組合 (Menizi Farmers Cooperative) ・州観光センター ・マティ港 ・環境保全プロジェクト (Sloping Circumstantial land technology) マティ (Mati) → ダバオ
9	4月9日(水)	ダバオ → タグム (Tagum) ダバオ州知事表敬訪問、州開発局等との協議、 現地調査 ・バスターミナル ・共同組合 (Mawab Multi-purpose Cooperative 及び Nabunturan Integrated Cooperative) ・観光地 (温泉) ・バナナプランテーション ・精米場視察 ・金採掘場 タグム (Tagum) → ダバオ

	日程	行程
10	4月10日(木)	ダバオ→ダイゴス (Digos) ダバオデルスール州知事表敬訪問、 州開発局との協議、 現地調査 ・カバタガン村 (Kapatagan) (州の農業、観光拠点地域) ・マララグ町 (Malalag) (アグロインダストリアルセンター) ・マララグ港 ダイゴス→ジェネラルサントス ジェネラルサントス市市長表敬訪問
11	4月11日(金)	ジェネラルサントス現地調査 ・マッカール (Macar) 港 ・漁港 (OECPローンにより建設中) ・空港 ・民間ボランティア 市長へ調査結果報告
12	4月12日(土)	ジェネラルサントス→ダバオ 資料整理 ミンダナオ経済開発評議会ポール・ドミンゲス議長との協議
13	4月13日(日)	サマール島現地調査 団内打ち合わせ ミニッツ案協議
14	4月14日(月)	フィリピン政府、各援助機関へのプレゼンテーション I/A、M/M署名
15	4月15日(火)	日本領事館へ調査結果報告 (小山、鈴木、岩崎)ダバオ (PR812) →マニラ JICA、大使館へ結果報告 (コンサルタント) 補足調査開始
16	4月16日(水)	(小山、岩崎)JICA事務所との打ち合わせ、マニラ(JL742)→東京
20	4月20日(日)	(コンサルタント) ダバオ (PR812) →マニラ
21	4月21日(月)	(コンサルタント) マニラにて補足調査
22	4月22日(火)	(コンサルタント) 補足調査
23	4月23日(火)	(コンサルタント) JICAへ調査結果報告、マニラ (JL742) →東京

#### 1-5 I/A協議概要

調査団は、フィリピン政府関係者、援助機関関係者等との一連の協議、現地調査を経て、4月14日、本調査の実施機関となるダバオ市、ダバオ州、ダバオデルノルテ州、ダバオデルスール州と実施細則 (I/A) を、ミンダナオ経済開発評議会ポール・ドミンゲス議長、各省の第XI地域局長立ち会いの下、署名交換行った。I/Aの内容は、当初対処方針に沿ったもので、概要は以下のとおり。

##### 1) 目的:

- ・2016年を目標年次とした経済、社会、環境のバランスが取れた地域総合開発計画の策定及び優先プロジェクトの選定
- ・マスタープラン実施に必要な実施体制の提言
- ・地域総合開発計画作成に必要な技術移転

## 2) 調査対象地域

・ダバオ市、ダバオ州、ダバオデルスール州、ダバオオリエンタル州

## 3) 調査範囲：以下の4ステップに分け実施することとした。

- ア 現状分析及び開発の必要性、ポテンシャル、制約条件の想定
- イ 開発戦略、フレームワークの作成
- ウ マスタープランの作成
- エ 優先プロジェクトの選定、開発促進のために取るべき方策、開発実施体制の整備、優先プロジェクトに対するIEEの実施、総合評価

## 4) 調査スケジュール：約20ヶ月

## 5) フィリピン政府の負担事項：

特に、カウンターパート機関として、ダバオ市、ダバオ州、ダバオデルスール州、ダバオオリエンタル州の4地方自治体が調査の円滑なる実施に責任をもつことを確認した。

その他、ミニッツにて以下の点を確認した。

- 1) ステアリングコミティーメンバーは、4地方自治体長、NEDA第XI地域局長、NEDA第XI地方開発評議会（RDC）議長、ダバオ総合開発プログラム（DIDP）プログラム局長で構成される。
- 2) テクニカルコミティーメンバーは、各地方自治体の開発局、各省庁関係者、NGO、住民組織の代表者で構成される。
- 3) カウンターパートは、経済開発、環境、社会開発、空間計画の4分野をカバーする人員を、各地方自治体から確保する
- 4) 調査実施にかかる諸々の調整はダバオ総合開発プログラム（DIDP）が担当する
- 5) マスタープランの作成には広く関係者を巻き込む。この観点から、ワークショップは、各自治体レベルで開催し、セミナーについては、インテリムレポート、ドラフトファイナルレポート時に地域、国レベルで開催する。
- 7) セミナー、ワークショップの会場費、資料以外の費用はフィリピン側負担。
- 8) DAC新開発戦略に沿った社会開発、環境へ配慮をした調査を実施する
- 9) 事務所については、フィリピン側の負担。調査団が使用するコピー機、ワークショップの開催に必要な視聴覚機材については、JICAへの要請があった。
- 10) 車両については、JICA側で用意したい旨要請があった。
- 11) 日本での研修について要請があった。
- 12) GISを用いた調査実施の要請があった。

## 第2章 フィリピンの国家・地域開発の現状と計画

### 2-1 フィリピン

#### 2-1-1 社会経済概況

フィリピン国は1990-1992年の経済危機を乗り越え、1993年から経済回復軌道に乗って順調な経済発展を遂げている。1993年では2.1%であった国内総生産は、電力問題解決後1994年4.4%、1995年4.8%と高い成長を示した。この経済成長は政府の種々の政策による輸出と投資の拡大によってもたらされた。事実、投資は1993年7.9%、1994年8.6%、輸出は1994年19.8%、1995年11.9%と拡大した。個人消費も着実に伸びている(3.0% 1993年、3.8% 1995年)。この比国の経済回復は政府の市場主義政策によるもので経済の安定と経済構造改革が追求された結果である。この様な発展段階にあるフィリピン国の経済・産業の基本動向を列挙すれば以下の通りである。

#### (1) 経済発展

概括的に言えば1993年からの比国経済・財政は改善に向かっており、物価上昇も一桁に抑えられ、政府財政状況も大幅に改善された。(政府財政赤字は1994、1995年黒字に転じた。)国民総生産が成長率5%台に推移し、人口増加率はほぼ2.4%のレベルである(1994、1995年)。上記のような経済発展にも係わらず1人当たりGNP、失業率などでは大幅な改善は見られていない。

#### (2) 産業発展

1993-1998年の中期計画の前半期において、農業は停滞したものの(1993年の2.1%の生産額の年伸び率から1995年の0.9%への減少-干ばつ、台風等による。)、第2次産業がこれをカバーして1.6%(1993年)から7.2%(1995年)に拡大した。特に政府の公共投資、活発な民間によるインフラ整備(BOT)民間建築活動等により建設産業の拡大がこの時期の大きな特徴となっている。農業を除いて全産業1993年以来順調に伸展している。第三次サービス産業も国内生産に合わせて着実にのびている。特に金融は銀行業務の自由化や金融需要の増大、等により成長を続けている。運輸産業における自由化、通信分野の刷新もこのセクターの発展を助けている。

#### (3) 社会発展

##### (経済力-Economic Empowerment)

平均家庭所得は名目では大幅に拡大したが、実質ではわずかに減少している(人口増と10%の高所得者層の所得減)。しかし貧富の格差は減少している(低所得者層30%の平均所得の著しい増大)。貧困地域と言われている南部・中部ミンダナオ、ビコール、西部ビサヤは平均家庭所得増加で最も高い値を示した。貧困率(Poverty Incidence)でも改善を示した(39.9% 1991年から35.5% 1994年-都市31.6%から24.4%、農村48.6%から47.1%)。

##### (教育・文化-Sociocultural and Spiritual Empowerment)

基礎識字率は93.5%(1990年)から95.8%(1995年)、小学校就学率は85.4%(1993年)から87.1%(1994年)に推移している。

表 2.1.1 フィリピン経済の実績と計画

指標	1987-92	1993	1994	1995	1996	1997	1998
GNP 成長率 実績	4.2	2.1	5.3	5.5			
計画	-	2.4	3.5-4.5	4.0-6.5	6.5-7.5	7.0-8.0	7.5-8.5
個人消費	4.1	3.0	3.7	3.8	4.0-4.2	4.3-4.5	4.5-5.1
政府消費	4.1	6.2	6.1	3.6	5.0-4.5	4.0-4.5	4.0-5.0
投資	10.2	7.9	8.6	3.5	11.3-12.9	11.2-13.0	12.1-14.8
輸出	7.1	6.2	19.8	11.9	17.1-17.4	16.0-16.5	16.0-16.5
輸入	13.5	11.5	14.5	16.6	13.7-13.9	13.4-14.2	13.6-15.0
Per capita GNP ('85年価格)	11,176	11,151	11,458	11,805	12,283- 12,400	12,875- 13,100	13,524- 13,904
年増加率			2.8	3.0	(4.0-5.4)	(4.7-5.6)	(5.2-6.1)
GDP 成長率 実績	3.3	2.1	4.4	4.8			
計画	-	2.0	3.4-4.4	4.1-6.2	6.0-6.8	7.1-7.8	7.6-8.3
第1次産業	2.0	2.1	2.6	0.9	2.7-3.2	3.7-3.9	4.0-4.2
第2次産業	3.2	1.6	5.8	7.2	9.0-10.0	10.3-11.3	10.7-11.8
鉱業	1.0	0.7	7.0	5.9	6.0-6.5	6.0-6.5	6.0-6.5
工業	3.6	0.8	5.0	6.8	8.5-9.7	10.0-11.0	10.5-11.5
建設	4.6	5.7	9.0	6.5	10.0-11.0	13.5-14.0	13.8-14.5
公益施設	1.9	2.9	13.8	13.0	12.0-12.5	8.6-11.0	8.8-11.0
第3次産業	4.2	2.5	4.2	4.9	5.3-6.0	6.0-6.8	6.5-7.2
輸出入 輸出	12.7	15.8	18.5	29.4	17.0	23.8	21.6
ココナツ	6.8	17.3	20.1	54.8			
砂糖	4.5	17.3	40.3	3.9			
果物、野菜	5.4	18.3	2.3	6.8			
その他農産物	3.9	10.2	11.3	8.5			
木材	15.5	21.1	42.2	46.2			
鉱物	5.8	8.4	13.7	14.5			
石油製品	28.0	9.3	2.9	29.5			
工業製品	18.4	19.6	21.6	30.6			
輸入	19.8	21.2	21.2	23.7	23.8	22.4	16.4
人口増加率	2.4	2.50	2.45	2.39	2.3	2.3	2.2
就業構成(%)							
第1次産業			45.1	43.3	42.4-42.3	41.2-41.1	40.1-39.9
第2次産業			15.8	16.1	16.5-16.5	16.9-16.9	17.2-17.4
第3次産業			39.1	40.4	41.2-41.2	41.9-41.9	42.7-42.7
失業率 実績	9.8	9.3	9.5	9.5			
計画	-	9.3	9.1	8.8	9.4-9.2	8.7-8.2	7.6-6.9

Philippine Statistical Year Book (NSCB)

## 2-1-2 国家開発計画

ミンダナオ・対象地域に関わる国家・地域開発計画の系譜を表 2.1.2 にまとめた。計画は基本的に4段階で策定されている、すなわち全国、ミンダナオ全島、地域（リージョンII）、州・市である。このうちミンダナオ全島はリージョンと言う通常の開発行政区域ではない。また、これら国家・地域から州までの開発計画・政策のコンテクスをまとめたものが表 2.1.3 である。

1992年に策定されたフィリピン中期国家開発計画（1993-1998）は前半期（1993-1995）の実績評価に基づき 1995年に改訂され、（Updated Medium Term Philippine Development Plan 1996-1998）として更新された。当初計画の基本目標である“国際競争力と人的開発の2大戦略による生活の質の改善”は継続するが、最近の発展・出来事--WTO、社会開発のための世界サミット、社会改革ア

ジェンダなどを考慮して1998年の目標達成のための計画・事業の見直しが行われた。全比国民の生活の質の改善を追求するフィリピン2000がこの改訂の基本指針であり、人的能力と国際競争力のツイン戦略がベースである。またこの国家計画の改訂に対応して、ミンダナオ開発フレームワークプラン、南部ミンダナオ地域開発計画が更新された。

### (1) マクロ・エコノミー

現在の経済発展が持続・拡大するものとして、GNPで7-8%、GDPで7.6-8.3%(1998)成長するものと予測している。これは過去同様投資と輸出の拡大により達成するものとしている。

リージョン毎には大半のリージョンで7.3%を達成することとし、特にリージョンIV、XIで高い成長率が期待されている。(それぞれ9.5%、8.5%)リージョンXIはBIMP-EACAのセンターとして位置づけられ、今後の比国の発展の牽引役として期待されている。

マクロエコノミー政策として、価格政策(インフレ5.5%)金融・財政・財務、労働・雇用等の政策が策定されている。

### (2) 産業政策

自由化と規制緩和が産業の競争力強化・投資拡大を図った。この政策を更に拡大することとし、産業の持続的発展を図る。農業については成長率を2.3-3.5%とし、米・とうもろこしの国内自給率を高める。政策と戦略は、インフラの整備、農産物価格・税・規制政策の改正、農業金融、研究・開発、農業土地政策等である。第2次産業については過去を上回る10.7-11.8%を予定し、工業・建設・公益施設の高成長を期待している。鉱業は1994年から伸び出した生産を持続的に発展させようとしている。また産業政策・戦略は、マクロ経済・貿易・産業政策の総合調整、セクター間のリンケージの強化と産業の分散(地域アグリインダストリアル・センター、ECOZONES)投資自由化、環境に優しい産業政策、中小企業振興、産業開発における女性の役割の強化等である。

### (3) 社会開発

国家開発計画では 1. MBN(ミニマム・ベシツ・ニーズ)の充足 2. 人間の生産活動能力の強化 3. 社会統合の促進を目標に 4分野で社会開発を進めることにしている。

所得・貧困・雇用: 1994年の貧困率35.5%を1998年30%へ下げることが目標に更なる雇用機会を創造する。失業率は1995年の9.5%から1998年6.9%とする。

健康・栄養・家族計画: 国民の種々の健康指標(平均寿命、幼児死亡率、死亡率、体重など)に目標値が設定されこれを達成すべく、政策と戦略が示されている。即ち、基礎的必要性の充足、人の生産能力の強化等である。

教育・人材開発: 識字率、就学率、等の目標値を達成するための戦略と政策が示されている。基礎教育の重点、決定権限の分権化、技術・情報化に対応した学校システムの近代化、高等教育制度の再編成(権限のLGUsへの委譲を含む)

住宅: ローコストハウジングが最優先であり、下位30%の低所得層に可能な住宅金融プログラムを準備する。

社会福祉: 基礎的社会サービスは最貧層を中心に供給される。(172,500人1998年)より効果的、効率的社会サービスの為にLGUs、NGO、Pos、教会グループ等がネットワーク化されなければならない。ジェンダーと開発(GAD)についても各機関の中心的課題とし制度化を図ると共に実際の事業



の中に GAD 活動を入れ込むことにより地方政府職員的能力向上を図る必要がある。

表 2. 1. 2 国家・地域開発計画の系譜

	Philippine	Mindanao	Southern Mindanao (Region XI) ( 6 Provinces and 2 Cities)	Davao Integrated Development Area ( 3 Provinces and 1 city )
1992 LGC (Devolution) 1991	The Medium Term Philippine Development Plan (1993-1998) NEDA			
	⋮	Mindanao Development Framework Plan (1993-1998) NEDA		
1993	⋮	⋮	Southern Mindanao Region Development Plan(1993-1998) NEDA	Davao City Framework plan 1993-1998
1994 Agreement BINP-EAGA Davao IDP	↓	Updated Mindanao Development Framework Plan (1994-1998) NEDA, 4RDC and ARMM	⋮	
1995	Updated Medium Term Philippine Development Plan (1996-1998)  Updated Regional Development Investment Program (1996-1998)	Mindanao 2000 Development Framework Plan(1995-2010) USAID	Updated Southern Mindanao Region Development Plan (1996-1998) RDC XI	Comprehensive Development Plan (1996-2021) Davao city  CY 1993-2002 Provincial Physical Framework Plan of Davao del Sur
1996				CY 1995-2002 Provincial Physical Framework Plan of Davao Oriental  Provincial Physical Framework Plan /Comprehensive Land use Plan of Davao Province

表 2.1.3 ミンダナオにおける国家・地域開発計画/政策のコンテキスト

<p>Medium Term Philippine Development Plan(1993-1995) / Updated(1996-1998) National Strategy : international competitiveness and human development</p>	<p>BIMP-EAGA Goals : increase trade, investment, and tourism in the sub-region Objective: Free movement of people, goods &amp; services, Common infrastructure &amp; natural resources, Economic complementation</p>	<p>Southern Mindanao Southern Mindanao Region Development Plan (1993-1998) / Updated (1996-1998) Objectives Reduce poverty and unemployment Improve ecological condition Basic social service Infrastructure Development Administration Safety Targets Macro economic ( GDP 7.4% ) and Sectoral Strategies 1) Key strategy Countrywide Agri-industrial Development (CAID) 2) Economic zone, Bipolar, Dispersed concentric strategy * Davao Integrated Development Area ( Davao primary growth center ) SOCSARGEN * Economic Zone (C.S Urban center) * Regional Agri - Industrial Center (RAIC) in Davao / Industrial Estate in C.S city * 1) Provincial Agri-industrial centers (PAIS) * Human development strategy * Social Reform Agenda(SRA) program / Minimum Basic Need * 3) Agri-industrial strategy * Key Production Area approach in linkage with industry 5) Infrastructure strategy 6) Development administration 7) Development financing Major Programs and Projects</p>	<p>Davao Integrated Dev. Program (DIDP) (Davao city, Davao Oriental, Davao Province, Davao Del Sur Vision of unity and development Objectives Promote and expand an effective and mutually beneficial cooperative undertaking in the development of the DIDP area Development concerns Poverty, Environment degradation, inadequate social services, Infrastructure facilities DIDP Project management office Programs and Projects Housing, Road, Communication, Water facilities, Solid waste management, &amp; other environment related projects Comprehensive Dev. Plan (Davao City) Provincial Framework Plan(Davao Prov.) Provincial Framework Plan(Davao Del Sur) Provincial Framework Plan(Davao Oriental)</p>
<p>Mindanao 2000 Vicious Cycle of Underdevelopment 1) Sluggish economy/ Low income 2) Backwater role (Food/raw material supplier) 3) Enclaves and Extractive industry 4) Regional Political Divisions 5) Muslim-Christian Conflict(ARMM)</p>	<p>Mindanao Mindanao development Framework Plan(1993-1998) / Updated (1994-1998) Goal Better quality of life through human development(People's capacity, opportunities Strategies 1) Mindanao growth corridors (General Santos-Davao) 2) For global competitiveness through direct trade links * Agricultural advantages BIMP-EAGA Regional Growth / Agri-Industrial Centers 3) For human resource and social development * Education/Health/Nutrition/Shelter/People empowerment 4) For physical linkage * Road /Communication /Airport/Sea port /Electrification /Rail /Waterway /Water supply 5) For Public order and safety Sustainable Development (Environment) Development Administration And Financing 1) Mindanao Economic Development Council(MEDCO) * Regional Development Council and ARMM 2) Mindanao Business Council (MBC) Represent in East ASEAN Business Council Recommended Policies Mindanao Economic Development Corporation /Mindanao Power corporation /Airport Authority /Travel tax, Travel restriction /Travel policies Key integrating projects of Mindanao</p>	<p>Southern Mindanao Region Development Plan (1993-1998) / Updated (1996-1998) Objectives Reduce poverty and unemployment Improve ecological condition Basic social service Infrastructure Development Administration Safety Targets Macro economic ( GDP 7.4% ) and Sectoral Strategies 1) Key strategy Countrywide Agri-industrial Development (CAID) 2) Economic zone, Bipolar, Dispersed concentric strategy * Davao Integrated Development Area ( Davao primary growth center ) SOCSARGEN * Economic Zone (C.S Urban center) * Regional Agri - Industrial Center (RAIC) in Davao / Industrial Estate in C.S city * 1) Provincial Agri-industrial centers (PAIS) * Human development strategy * Social Reform Agenda(SRA) program / Minimum Basic Need * 3) Agri-industrial strategy * Key Production Area approach in linkage with industry 5) Infrastructure strategy 6) Development administration 7) Development financing Major Programs and Projects</p>	<p>Davao Integrated Dev. Program (DIDP) (Davao city, Davao Oriental, Davao Province, Davao Del Sur Vision of unity and development Objectives Promote and expand an effective and mutually beneficial cooperative undertaking in the development of the DIDP area Development concerns Poverty, Environment degradation, inadequate social services, Infrastructure facilities DIDP Project management office Programs and Projects Housing, Road, Communication, Water facilities, Solid waste management, &amp; other environment related projects Comprehensive Dev. Plan (Davao City) Provincial Framework Plan(Davao Prov.) Provincial Framework Plan(Davao Del Sur) Provincial Framework Plan(Davao Oriental)</p>
<p>Winds of Change , 1993-1994 1) Infrastructure Program (Flagship program 1993) Road—34% of Total investment Airport—40% of Total investment 2) Policy Reforms (Deregulation-trade liberalization , Privatization etc. ) 3) Peace Negotiation 4) Toward Free Trade (WTO, AFTA and BIMP-EAGA) 5) Private sector initiative (Agribusiness-contract farming) (SOCSARGEN Growth model) (Mindanao Business Council) Countdown For Take-Off</p>	<p>Mindanao development Framework Plan(1993-1998) / Updated (1994-1998) Goal Better quality of life through human development(People's capacity, opportunities Strategies 1) Mindanao growth corridors (General Santos-Davao) 2) For global competitiveness through direct trade links * Agricultural advantages BIMP-EAGA Regional Growth / Agri-Industrial Centers 3) For human resource and social development * Education/Health/Nutrition/Shelter/People empowerment 4) For physical linkage * Road /Communication /Airport/Sea port /Electrification /Rail /Waterway /Water supply 5) For Public order and safety Sustainable Development (Environment) Development Administration And Financing 1) Mindanao Economic Development Council(MEDCO) * Regional Development Council and ARMM 2) Mindanao Business Council (MBC) Represent in East ASEAN Business Council Recommended Policies Mindanao Economic Development Corporation /Mindanao Power corporation /Airport Authority /Travel tax, Travel restriction /Travel policies Key integrating projects of Mindanao</p>	<p>Southern Mindanao Region Development Plan (1993-1998) / Updated (1996-1998) Objectives Reduce poverty and unemployment Improve ecological condition Basic social service Infrastructure Development Administration Safety Targets Macro economic ( GDP 7.4% ) and Sectoral Strategies 1) Key strategy Countrywide Agri-industrial Development (CAID) 2) Economic zone, Bipolar, Dispersed concentric strategy * Davao Integrated Development Area ( Davao primary growth center ) SOCSARGEN * Economic Zone (C.S Urban center) * Regional Agri - Industrial Center (RAIC) in Davao / Industrial Estate in C.S city * 1) Provincial Agri-industrial centers (PAIS) * Human development strategy * Social Reform Agenda(SRA) program / Minimum Basic Need * 3) Agri-industrial strategy * Key Production Area approach in linkage with industry 5) Infrastructure strategy 6) Development administration 7) Development financing Major Programs and Projects</p>	<p>Davao Integrated Dev. Program (DIDP) (Davao city, Davao Oriental, Davao Province, Davao Del Sur Vision of unity and development Objectives Promote and expand an effective and mutually beneficial cooperative undertaking in the development of the DIDP area Development concerns Poverty, Environment degradation, inadequate social services, Infrastructure facilities DIDP Project management office Programs and Projects Housing, Road, Communication, Water facilities, Solid waste management, &amp; other environment related projects Comprehensive Dev. Plan (Davao City) Provincial Framework Plan(Davao Prov.) Provincial Framework Plan(Davao Del Sur) Provincial Framework Plan(Davao Oriental)</p>
<p>Strategy # Export-Oriented Strategy # Agriculture Development and Agri-Industrialization Strategy # Environment Management Strategy # Social Development Strategy</p>	<p>Mindanao development Framework Plan(1993-1998) / Updated (1994-1998) Goal Better quality of life through human development(People's capacity, opportunities Strategies 1) Mindanao growth corridors (General Santos-Davao) 2) For global competitiveness through direct trade links * Agricultural advantages BIMP-EAGA Regional Growth / Agri-Industrial Centers 3) For human resource and social development * Education/Health/Nutrition/Shelter/People empowerment 4) For physical linkage * Road /Communication /Airport/Sea port /Electrification /Rail /Waterway /Water supply 5) For Public order and safety Sustainable Development (Environment) Development Administration And Financing 1) Mindanao Economic Development Council(MEDCO) * Regional Development Council and ARMM 2) Mindanao Business Council (MBC) Represent in East ASEAN Business Council Recommended Policies Mindanao Economic Development Corporation /Mindanao Power corporation /Airport Authority /Travel tax, Travel restriction /Travel policies Key integrating projects of Mindanao</p>	<p>Southern Mindanao Region Development Plan (1993-1998) / Updated (1996-1998) Objectives Reduce poverty and unemployment Improve ecological condition Basic social service Infrastructure Development Administration Safety Targets Macro economic ( GDP 7.4% ) and Sectoral Strategies 1) Key strategy Countrywide Agri-industrial Development (CAID) 2) Economic zone, Bipolar, Dispersed concentric strategy * Davao Integrated Development Area ( Davao primary growth center ) SOCSARGEN * Economic Zone (C.S Urban center) * Regional Agri - Industrial Center (RAIC) in Davao / Industrial Estate in C.S city * 1) Provincial Agri-industrial centers (PAIS) * Human development strategy * Social Reform Agenda(SRA) program / Minimum Basic Need * 3) Agri-industrial strategy * Key Production Area approach in linkage with industry 5) Infrastructure strategy 6) Development administration 7) Development financing Major Programs and Projects</p>	<p>Davao Integrated Dev. Program (DIDP) (Davao city, Davao Oriental, Davao Province, Davao Del Sur Vision of unity and development Objectives Promote and expand an effective and mutually beneficial cooperative undertaking in the development of the DIDP area Development concerns Poverty, Environment degradation, inadequate social services, Infrastructure facilities DIDP Project management office Programs and Projects Housing, Road, Communication, Water facilities, Solid waste management, &amp; other environment related projects Comprehensive Dev. Plan (Davao City) Provincial Framework Plan(Davao Prov.) Provincial Framework Plan(Davao Del Sur) Provincial Framework Plan(Davao Oriental)</p>

SOCSARGEN Economic Zone

( South Cotabato, Sarangani Province, General Santos City, Sultan Kudarat )

#### (4) 社会経済基盤整備

インフラ整備は2つの課題に対応すべく計画されている。水、住宅、健康、交通などの人々の基本ニーズに対応すると同時に生産分野に対する支援施設を供給しなければならない（特にアグライندگانストリアルセンター）。社会経済基盤整備においては、民間投資（BOT等）の更なる促進、事業実施促進のための効果的な調整システム、地方経済の為の地方政府インフラ・プログラム（社会的困窮地域の基礎インフラ、成長ポテンシャルの高い地域の支援施設）

中期国家開発計画では主要国家基盤施設整備プロジェクトが計画されている。電力、幹線道路、海上輸送、空港、鉄道、通信、水資源等である。ミンダナオ及び南部ミンダナオに関するこれらの国家プロジェクトは、次節で述べられる。

### 2-2 ミンダナオ

#### 2-2-1 開発概況

フィリピンはルソン、ビサヤ、ミンダナオの3地域から成り、ミンダナオはその最南端に位置し面積は102,043平方キロメートルで国の1/3を占め、人口、GRDPはそれぞれ全国の23.6%、18.4%を占める。ミンダナオは1985-1990年の低いGRDP成長率(2.06%)にも見られるように、フィリピンで最も低開発地域であったが1992年以降急速に発展している。GRDPのセクター別全国比は鉱業18.7%、工業14.1%に対し農業38.1%と高くフィリピンの食料供給基地となっている。鉱業はミンダナオにおいては南部ミンダナオに集中している。一方、平均所得ではビサヤ地域より高いが、ルソン地域の8割に留まっている。インフラについては道路密度、電化率、灌漑普及率、電話普及率のどれも全国平均を下回る。特に1992年以降の開発にはミンダナオ開発協議会(MEDECO)が係わっている。この協議会は後で述べるように、大統領令により設立され（大統領府ミンダナオ担当官が議長）ミンダナオ開発の推進役として総合調整、民間誘致、企業振興を行っている。またBINP-EAGAの会議等にはこれがフィリピン代表として参加している。

ミンダナオ開発の経緯は「ミンダナオ2000」の現況分析をベースに以下のようにまとめられる。すなわち、過去1990年代以前は種々の理由で低開発の悪循環(Vicious cycle of underdevelopment)に陥り比国内でも未発展状態に置かれた。しかし1992-93年以降、国及びミンダナオに大きな変化(Winds of change)が生じ、今発展の軌道に乗ろうとしている。

「ミンダナオ2000」の中では、過去の発展を阻害した要素として、以下を挙げている。

#### (1) マニラ等に対する単なる食料・原材料供給基地化と発展の悪循環

ミンダナオは1970年代までは人口過密の農村や都市からの移住計画地であった。（人口成長は全国平均より高い）これらは農村移住であったため農業生産を拡大させ、ミンダナオをマニラなどに対する食料・原材料供給基地としたが、他の産業の育成進行が遅れまた干ばつ・洪水などによる農業の停滞のため地域産業・経済は全国平均やマニラに大きく遅れることになった。またミンダナオの移住による高人口比率は一人当たり生産や所得を低下させている。このような地域産業・経済の停滞は所得を低下させ、より貧困化させると共に雇用が縮小しさらに経済を落ち込ませた。

## (2) 過去の国家開発政策の結果としてのミンダナオの低開発

過去の国家開発政策（国内重点工業化、資本集約・輸入代替産業育成、マニラ中心政策など）は国家目的の追求として実施されたがそのためミンダナオは自立的な地域発展の道を閉ざされてきた。事実1980年代の政府開発資金の3/4がルソン島に投下され、ミンダナオは僅か10%程度であり、フィグー道路の不足による農作物の高輸送コスト、灌漑施設不備による低生産、不十分なポストハーベスト施設による損傷、通信施設不備によるマーケットの問題、低民間投資などにより、総合的開発が採られることなく低開発のまま置かれた。

## (3) 地域発展に結びつかない産業開発形態

ミンダナオの顕著な産業開発形態は飛び地的に分布する 1. 輸出用の特定農作物生産を行うプランテーション 2. 主として輸出用の大規模資源開発産業（木材・製材工場、製紙工場、製鉄工場等）であり、ここであげられた収益は地域での関連・二次的産業開発を促進するような支出として地域で循環されない。また、これら産業は自己完結的であり更に外部との取引を主とするため近隣地域社会との産業的・経済的リンクは弱く地域経済の発展にあまり結びつかなかった。

## (4) 地域分割

1990年以前の体制においてはミンダナオはいくつかの地域開発協議会に分割され相互の協力・調整は余りなされなかった。むしろそれぞれが中央とつながり1経済圏・島としての一体性は無かったためこの経済圏のポテンシャルを最大化する総合的開発ができなかった。事実ミンダナオ中期計画ではこれを反省してミンダナオ経済開発協議会を発足させリージョンを総合調整し島経済圏としての総合的・一体的開発を推進している。

## (5) モスレン・キリスト問題

モスレン・キリスト教徒・間の軋轢、分離主義運動等の平和と秩序の問題がミンダナオの他の問題と絡み合って開発を妨げてきた。特にモスレン・キリスト教徒との問題の原因は、地元民が支配する地域に彼らの権利と規範を無視した北部キリスト教徒の絶えざる移住、プランテーション・重工業経営と地元小農の衝突、島の急激な自然資源の壊滅、島を分割する分割主義等、開発の一般に関連するものも少なくない。

以上、1980年代はミンダナオにとって低迷期であったが、1993年以降大きな変化・改革が生じ、ミンダナオを強力に発展させつつある。この期の変化を実績としてまとめれば以下の通りである。

### (1) 政府政策・事業

#### ア. インフラ投資の飛躍的増大

今までのインフラ整備の遅れを取り返すかのように1993年以降インフラ投資が急激に拡大している。例えば、道路は道路政府予算の34%（1998年までに）、また1995年までに空港は空港政府予算の40%、港湾は42%、であり電話は35%増加した。特に大統領による“フラグシッププログラム”によりミンダナオでは13のハイウェイ計画が取り上げられ着実に実行されている。

#### イ. 政策改革

政府の国際競争力の強化のための各種政策改革はミンダナオ経済に大きな効果を及ぼした。それらは運輸・通信の規制緩和・改革、貿易自由化、銀行制度の規制緩和、政府資産の民営化、農業の

法的・制度的改革（ミンダナオフィリピン大学設置、ダバオ州における国立水産大学の設置を含む）  
ウ. 和平交渉

ラモス大統領はその就任から MNLF との和平交渉を進め、ミンダナオの投資環境は徐々に改善されてきた。1996 年の和平締結はこれを加速するものであるが、平和と秩序の問題が完全に解決されたわけではない。むしろ経済開発により平和の報酬を確実にするため地域開発の促進が望まれる。

エ. 国際貿易の自由化

WTO, AFTA 等による国際貿易の自由化は国際・地域の貿易を拡大させ、ミンダナオにとってもその工業化・貿易の拡大が期待されている。1994 年に締結された地域貿易を拡大させるための BIMF-EAGA はそのような交流・貿易の兆候をみせはじめている。

## (2) 民間進出と開発形態の変化

ミンダナオの 80 年代と 90 年代の顕著な変化の 1 つは、民間進出の活発化及び開発形態の変化であるといわれている。民間進出のいくつかの事例は以下の通りである。

1. DOLE 食品多国籍企業 (アスパラガス)
2. TADI アグリー・インダストリアル開発会社 (パイナップル)
3. RFM コーポレーション (食肉)
4. サンミゲル コーポレーション (食肉)
5. Ekhran-Berhad 企業-マレーシア (サマル島観光開発)

これら民間企業の主要特性は 1. 大規模プランテーション経営から契約経営（契約栽培、賃貸借付き売買、合併） 2. 農業生産と下流・上流との結合〔工業リンケージ〕—食品加工等 3. 原料供給から付加価値生産システム このように過去においては政府主導であったが、民間がイニシアチブを採って開発が進むようになり、政府・民間・地域農家・CARP 農民の協調が生まれてきたことが大きな変化の 1 つとして認識されている。

ミンダナオにおいてこのような政府と民間の連携によるモデル的経済成長ゾーンとして発展している例としては、ジェネラル・サントス市を中心とした SOCSARGEN（ソクサージェン）があげられる。一方で、大規模インフラ整備（国際空港、港湾、漁港、道路—USAID, OECF）が進み、他方、輸出志向の農業関連産業への民間投資がなされ、これらは契約や合併として小規模農民、漁民、農業協同組合を巻き込んでなされている。これらは環境や人的開発などの社会事業についてもなされている。その例として挙げられるのが、沿岸資源管理計画、水域管理、技術教育施設等で、フィリピン製紙会社は地方アップランド農民協同組合と将来の工業用の木材生産のための契約を結んだ。

このようなミンダナオの民間参加による地域開発の特徴はミンダナオ・ビジネス協議会にみられる。これはミンダナオを統合する形で、民間参加を促進し、また政策提言、市場開発・投資促進を行うためにつくられた。

以上のように、ミンダナオの開発は従来と異なり、政府との協調の下民間のイニシアチブで地域住民の参加を得て進み始めたと報告されている。本格調査においてもミンダナオのこのような新しい開発形態に関心を持つべきであろう。

ミンダナオの経済は国の経済発展と同様の軌跡で成長してきた。すなわち 1992 年でマイナスであった経済成長率は 1993 年にはプラスに転じ、1995 年には国の成長率である 5%台に乗った。人口は

16 百万、地域総生産は 1,300 億ペソであり、国に対してそれぞれ 23.6%、18.4%の規模である。農業生産では全国の 36%を占めている。(トウモロコシ 67%、ココナツ 62%等) 漁獲量では全国の 42%を占める。更に鉱業では、金 48.4%、ニッケル 63.1%等である。

ミンダナオは 4 リージョンと ARMM (モスレン自治区) からなり、今回の調査とソクサージェンを含む南部ミンダナオ (リージョン X 1) が人口・生産額で最大の規模である (それぞれ 31.3%、36.7%)。各リージョンはそれぞれ特徴を持ち、生産額構成で見れば西部ミンダナオ、ARMM は農林・水産の割合が高く (それぞれ 50.8%、59.0%)、中部は工業が 40%を占める。地域総生産額の成長率から見れば各リージョンとも 1993 年以降順調に推移しているが、南部ミンダナオは成長のスピード (1995 年 5.1%) が最も速く、ミンダナオの開発の先導役をはたしている。Per Capita GRDP で見れば北部・南部は全国平均 (11,434 ペソ) のほぼ 9 割に達しているが、西部・ARMM 等は低く域内格差が生じている。しかしながら、1990-95 の年率では、北部・南部でマイナスとなっており注意を要する。貧困率は南部ミンダナオが最も低い。

表 2.2.1 ミンダナオの地域間比較

指標	フィリピン	ミンダナオ	ビサヤ	ルソン
人口 1990	60,697,994	14,298,160	13,041,947	33,357,887
1995	68,611,332	16,205,487	14,158,443	38,247,402
年平均人口成長率 %	2.48	2.54	1.66	2.77
地域総生産額 (Const.) 百万ペソ				
1985	571,884	117,152	94,390	360,342
1990	720,691	133,261	115,262	472,165
1995	803,450	147,574	130,281	525,595
年平均地域総生産成長率 (GRDP)				
1985-1990	4.73	2.61	4.03	5.55
1990-1995	2.20	2.06	2.43	2.17
GRDP Per capita ペソ (1995)	11,710	9,106	9,202	13,742
1990-1995 年平均成長率	-0.28	-0.46	0.81	-0.59
一人当たり所得 (Per Capita Income)				
1980	12,620	11,394	8,466	12,620
1991	11,311	9,014	7,966	11,352
地域別政府支出配分 %				
1979	100.0	17.4	15.69	66.92
1987	100.0	13.01	11.00	75.99
インフラ整備				
道路密度 1985	0.52	0.5	0.6	1.2
1992	0.54	0.5	0.6	1.2
電化率 (世帯) 1985	57.0	44.7	33.3	66.6
1992	55.1	38.8	36.3	63.6
灌漑普及率 % 1985	49.2	36.0	56.6	55.9
1992	48.7	38.3	56.6	54.1
電話普及率 1985	1.61	0.3	0.5	2.0
(100人当) 1992	1.47	0.4	0.6	1.5

Philippine Statistical Year Book (NSCD)

表 2.2.2 ミンダナオの地域別社会経済指標

項目	R-IX 西部ミンダナオ		R-X 北部ミンダナオ		R-XI 南部ミンダナオ		R-XII 中部ミンダナオ		ARMM	
人口	2,79,659		3,954,696		5,075,421		2,359,808		2,020,903	
雇用	1,033,000		1,688,000		1,995,000		848,000		729,000	
純移民 (世帯ベース) 1991	50.6		54.1		45.6		53.7		65.3	
Per Capita GNP 1995	7,474		10,158		10,281		9,231		3,795	
年率 1990-1995	2.5		-0.2		-2.3		1.7		-	
地域総生産 百万ペソ (年増)										
1992 131,850(-0.4)	21,186(2.0)		37,345(0.6)		48,953(-2.4)		24,396(0.0)			
1993 135,729(2.9)	22,078(4.2)		38,285(2.5)		50,167(2.5)		25,199(3.3)			
1994 140,511(3.5)	22,734(3.2)		40,070(4.7)		51,590(2.8)		26,067(3.4)			
1995 147,573(5.0)	21,599(-)		41,758(4.2)		54,200(5.1)		22,051(-)		7,965(-)	
セクター別増減 1995	構成比	年率	構成比	年率	構成比	年率	構成比	年率	構成比	年率
農林・水産 %	50.8	-0.71	36.8	2.53	38.1	0.87	33.2	2.76	59.0	8.59
工業 %	17.6	3.36	26.7	9.63	25.7	9.16	40.0	-0.13	16.5	11.44
サービス %	31.6	3.50	36.6	3.88	36.2	3.92	26.8	4.13	24.5	2.41

Philippine Statistical Year Book / Updated Mindanao Development Framework

## 2-2-2 ミンダナオ開発計画

### (1) 東アジア成長地域開発構想 (BIMP-EAGA) とミンダナオ

フィリピン国及びミンダナオ、特に調査対象地域が含まれる南部ミンダナオリージョン XI にとって現在最も重要な開発スキームの 1 つがこの東アジア成長地域開発構想である。この構想は以下にその概要を示すように、フィリピン国の国際貿易・交流を拡大しようとするもので、民間主導による経済活性化により、現在まで開発の遅れていたミンダナオの経済・産業を飛躍させようとするものである。

**基本概念** : 相互に近接する東アジアの 4 カ国内の比較的遅れていた地域が国境を越えて貿易・交流・投資を促進し経済・産業の成長地域を創ろうとするものである。

**参加国 (地域)** : ブルネイ、インドネシア (北スラウェシ、東及び西カリマンタン)、マレーシア (サバ・サラワク・ラブアン州)、フィリピン (ミンダナオ・パラワン)

**目標・目的** : 参加地域の貿易・投資・観光の増大 この為 1. 人・物・サービスの自由な移動を促進し 2. インフラと自然資源の共用化を図ると共に 3. 経済の補完関係を構築する。

**開発の原則** : 市場 (マーケット) 主導・民間重視・地方分権

**開発組織・体制** : 協力の組織・体制は緩く出来ており、事務局などは置いていない (官僚主義を

防止するためとのこと) また、全員一致主義も採らず、一致した国だけがプロジェクトを進める体制になっている。関係者がテーマ毎に頻繁にミーティング (既に 40 回以上) を行い、それに沿って各国が事業を進める。フィリピンは MEDCo (ミンダナオ経済開発協議会) がフィリピンの代表となっている。

開発プログラムと進捗 : 1994 年に本構想が 4 カ国で合意された後、各国の地域協力の分野が決定された。フィリピンは建設・建設資材及びアグリ・インダストリーを分担することになった。本構想の大きな特徴の一つであるが、中・長期の確定的総合開発プログラム・事業計画があつてこれを実施するシステムではなく、上記のように、適時改善計画を論議・決定して実施に移していくシステムのようなものである。本構想の基本的目的は民間投資の拡大であるが、政府はインフラ整備と規制・制度の改善に集中している。特に域内貿易・交流の基盤としての交通・運輸システムの改善・改良を優先し、国間貿易・交流を促進するための規制・制度の改善を含めた海上・航空輸送体系及び通信の整備を図りつつある。(表 2.2.3) これまでの進捗は決して大規模なものではないが、着実に構想の実現に向けて進んでいると評価すべきであろう。また、アグリ・インダストリーをベースにし、それぞれの国の地方のイニシアチブによる (国の支援があるとは言え)、地域の国際協力による実験的な経済開発であることを考えれば一見個別対応・漸進的改善であっても、その開発形態・様式は高く評価されるべきである。一方 ADB もこの構想を支援すべく EAGA についての戦略的研究調査 (Strategic Investigative Study) を実施した。この ADB 調査は EAGA 構想の可能性を確認し 121 のプロジェクトを可能性のあるものとして注目した。ADB の EAGA に対するスタンスはプロジェクトに対する直接財政援助ではなく、民間投資促進や開発を計画し運営する地方行政組織の能力強化のための援助に傾注している。ADB 調査が推薦する民間投資分野はアグリ・インダストリー、漁業、観光、インフラである。その内 GEM に採り上げられた民間投資プロジェクトがリストアップされている。

## (2) ミンダナオ 2000 開発構想 (USAID)

ミンダナオ、南部ミンダナオ・リージョン XI にとって BIMP-EAGA 構想と共に大きな影響力を及ぼす構想・計画である。これはフィリピン大統領府の農業研究・支援プログラムのために USAID の援助により策定されたものであるが、この調査・計画がミンダナオ開発に貴重な示唆を与えているばかりでなく、これが政府のミンダナオにたいする公式のガイドラインとなることが予定されているためである。

本構想の重要なコンセプトの概要を以下に示す。

ミンダナオの使命 : フィリピンの国家目標である “フィリピン 2000” (2000 年までに NICs) の実現にミンダナオ開発は不可欠である。ミンダナオの比較優位で競争力のある農業と農業加工業に先導された幅広い基盤を持つ高度経済発展がフィリピン国の持続的経済発展を支えする。高度経済成長と貧困撲滅は補完的關係にあり、これを実現するためのミンダナオの幅広い基盤を持つ成長アプローチは以下の通りである。1. ミンダナオの農業・農業加工は比較優位と競争力があり経済成長の支柱となる。2. 持続的成長は自然資源の適切な管理・利用により可能である。3. 市場重点・雇用創出の成長政策は貧困者層の生産資源利用を可能にする。4. マクロ経済の安定は持続的高経済成長を可能にする。このためには今までの断片的な開発から総合的でダイナミックな持続可能経済に移行させなければならない。



表 2.2.3 BIMP-EAGA における各国の合意開発・協力分野と進捗

	ブルネイ	インドネシア	マレーシア	フィリピン
合意開発分野 (当面)	航空	海上交通・海運	観光	漁業協力
(その他)	環境保護・管理 /通信	旅客移動/林業	エネルギー/人的開 発/資本形成・金融	建設・建設資材/ア グロ・インダストリ
航空 空港	1港 (ブルネイ)	4港 (バリクパパン/マ ナド/ボンチアナク/ク ラカン)	4港 (コタキナバル/ミリ /クチング/ラブアン)	4港 (ダバオ/G・サン トス/ザンボアンガ/ P・プリンセリ)
既開発航空路線	—	バリクパパン	コタキナバル/クチング/ ラブアン/ミリ	
ブルネイ	—	—	ボンチアナク-クチング	マナド-ダバオ
インドネシア	—	—	—	コタキナバル-ダバオ
マレーシア	—	—	—	—
フィリピン	—	—	—	—
旅客輸送制度の改善		旅行税免除 (1996)		旅行税免除 (1996)
海運 航路開設				
ブルネイ	—	—	ブルネイ-クチング/サン ダカン	ブルネイ-ザンボアンガ /ダバオ
インドネシア	—	—	—	ピンダラン-ダバオ/ジェ ネラル・サントス
マレーシア	—	—	—	サンダカン-ザンボアン ガ
フィリピン	—	—	—	—
海運改善策				
海運ネットワーク	海運局	商船学校 (ウジュンシ ク)	海運学校 (メラカ)	東アジア海運学校 (ス ル)
港湾使用料				国内料金 (G・サントス)
海運業	BIMP-EAGA海運協会の設立			
通信改善	アセアン国への電話 10- 40%引き	通常料金の20%カット	国内23%、国際18%カット	5-20%カット

MEDCo.

計画の目標 : 2010年までにこの使命を達成するために 四つの目標が設定された。国際競争力 (Global Competitiveness)、内外の統合 (Internal and External Integration)、持続可能開発 (Sustainable Development)、人間中心開発 (People-Centered Development) である。

開発の戦略 : これらの目標の実現のため 四つの戦略が設定された。輸出志向戦略、農業開発・農業工業化戦略、環境管理戦略、社会開発戦略 である。

輸出志向戦略 : これはミンダナオの農産物のポテンシャル、国際貿易の自由化による好機、昨

今の投資家のミンダナオへの確信等を踏まえて提案されているが、ミンダナオ経済への効果を重視している。(雇用の拡大、可処分所得の拡大による域内消費・産業の拡大及び増大貯蓄の再投資等)しかしながら、このためには農産物の量の拡大・質の改善、市場開拓、市場重点政策、インフラ整備等の必要性を強調している。

**農業開発・農業工業化戦略** : この分野がミンダナオ経済開発の基礎でありこのためには1. 生産性の向上(灌漑など)、利用資源(金融等)の拡充-労働・土地集約化、2. 農産品・加工品の多様化 3. 上流・下流とのリンケージによる付加価値の向上 4. 貿易相手の拡大 5. 農民・住民の商業化意識の向上 等が必要となる。上流・下流産業は域内需要の拡大(人口増加・所得拡大)に伴い必然的に育成されてくる。

**環境管理戦略** : 経済成長と環境保全の補完性について 1. 経済成長・所得向上はより環境保全度の高い技術の適用を可能にする。2. 資源・環境の経済的利用に住民が参加し利益分配に預かれれば住民自らが環境保全に努力する。(社会林業、沿岸資源管理システムの経験)

**社会開発戦略** : ミンダナオは貧困地域と分類されるが地域内は一様ではない。20%の最下位低所得層は最も不利な立場にある(過去生産資源から遠ざけられていたため)。この上の貧困層は貧困であるが経済成長の中での機会に対応出来る。貧困撲滅の大統領委員会は国で貧困と定義された州の下位1/3に属する州としてミンダナオで16の州を特定した。(計画対象地域DIDPではダバオ・オリエンタルのみ)社会開発事業ではこれらの州が優先地域となるべきである。社会開発では以下の点に留意すべきである。1. ターゲットと時間の明確化——ミンダナオ4リージョンでは経済発展度・貧困度も異なり、最貧状態を抜け出したリージョンもあれば、最低の識字率・生存率のリージョンもある。このようにディスアドバンテージ・グループのニーズは大幅に異なり、貧困層の生活の質の改善を意図する社会開発はこれを十分に考慮する必要がある。更に、これらは短・中・長期的対応に分類されなければならない。2. 参加型——従来の社会開発プログラムの多くは失敗であった。それは最貧層にまで届かなかったからである。貧困者が貧困撲滅プログラムの犠牲者になった例もある。いままでこれらのグループは社会的に酷く扱われてきたため役所的事業に拒否反応を示し積極的参加がなされなかった。社会開発に貧困層の積極的参加を動機づける為の草の根組織が必要となる。3. ジェンダー——経済発展があれば利益を受けると単純に考えられてきたが、むしろ悪い影響の方が大きい場合がある。女性は3重苦を背負われてきた。社会開発プログラムは、特に貧困農村女性の役割を強化するものであらねばならない。

2010年開発の目標値 : 成長率 7%、GRDPシェア—農業11%減、工業13%増、一人当たり所得 20,000ペソ(1985年値) 雇用 8,301,000人(39.7%増)

開発の地域構成 : 当計画ではミンダナオを三つの経済成長地域(Economic growth cluster-EGCs)に分け、その下に七つの地域開発ゾーン(Area development zone-ADZs)を指定している。南部ミンダナオEGCは三つのADZ(ソクサージェン、ダバオ湾岸地域、中部ミンダナオ)からなる。ここで南部ミンダナオEGCはリージョンXIには対応していない。ダバオ湾岸地域ADZはDIDPと同じ区域をカバーする。ダバオ湾岸地域ADZの開発構想の概要は3-3-2に示されている。

### (3) ミンダナオ開発フレームワークプラン(1993-98)及び更新計画(1994-98)

政府の地域開発計画は通常リージョン単位で策定されるが、ミンダナオでは4リージョンとモスレム自治区を包含してミンダナオ島全体の開発計画が立てられた。これがミンダナオ開発フレームワークプランである。これはミンダナオの政治的・社会的・文化的特殊性によるものである。この

フレームワークプランは国家中期計画の更新に先だって更新された。これはミンダナオの1990年代初頭の地域の激変、開発の急激さ、及び国家的・国民的関心の高さを示すものと理解される。このプランはその性格上ミンダナオ開発に対するガイドライン的役割を果たす。現在の地域開発システムではリージョン毎の中期開発計画が実効的開発計画となっているからである。このプランの概要を以下に示す。

目標 : 人的開発による生活の質の向上

戦略 : この目標を達成するため五つの戦略が提示されている。

1. ミンダナオ 成長回廊・センター (Mindanao growth corridors and centers) : ミンダナオの開発を進める為の地域構造確立を目的としてミンダナオ 成長回廊・センター が構想された。成長回廊として 1. Davao City-General Santos City-Parang-Maguindano-Zamboanga 2. Cagayan-Illigan が構想されている。

2. 連結・結合戦略 : ミンダナオの開発を遅らせていた最大の要因の一つはミンダナオを一体化するための運輸・通信を始めとするインフラ整備の遅れである。本計画では各リージョンを統合してミンダナオ全島の幹線道路システム、通信システム、空港システム、港湾システム、エネルギー・電力システム、鉄道システム、水供給システムが計画された。

3. 東アセアンとの直接貿易・経済リンクエッジ : ミンダナオの近隣諸国との地理的・歴史的・文化的近親性に基づく BIMF-EAGA の構築とその中での東アセアンとの直接貿易・経済リンクエッジによる経済・産業の浮揚。

アグリ・インダストリアル・センター (農業工業化センター) : 上記成長センターは五つのアグリ・インダストリアル・センターを育成する事により開発する。ダバオ市ではアグリ・ビジネス、アグリプロセッシング、エコ・ツーリズムを重視する。

4. 人的資源・社会サービス開発 : 貧困率、農村→都市移住、疾病率、死亡率、栄養不良、出生率、質の高い教育機会、開発に対応した技術教育、失業に関連した悪影響等の改善。

5. 公共秩序と安全 : 大統領令 126 (社会・経済・政治改革、コンセンサス・平和維持能力、平和的調停解決、和解と社会への復帰、敵意の解消、平和環境の醸成) の徹底

#### 持続可能開発の為の環境対策

ミンダナオには多様な環境破壊が進行している。森林の減少、土壌流失、マングローブ・珊瑚礁の破壊、漁業資源の枯渇、大気・水質汚染、河川・水路の沈積土、廃棄物、都市過密

水系 : 赤裸状態の水域のリハビリ、ミンダナオ水域管理のマスタープランの作成

沿岸域エコ・システム : 悪化したマングローブのリハビリ、珊瑚礁保護のための市民・NGOs への支援、沿岸資源管理の必要性についての啓蒙運動、ダイナマイト漁法の様な破壊的漁業の厳格な取締、マリーン・パークの設営

森林エコ・システム : 非木材材料及び使用済み木材再利用の開発、森林管理や水域のリハビリにおける住民を含めた村ベースの組織に対する支援、森林管理の地方行政能力の強化・地方行政官が直接森林管理に責任を持てるシステムの開発、30%以上の傾斜地における椰子やゴムの様な工業用作物の振興、環境保護地域ネットワークの拡大、環境保護地域外での稀少性動物・植物相の保護の為の森林公園・グリーンベルトの開発、植物多様性保護の為の対策の策定

農業 : 有機的肥料・殺虫剤利用の促進、有害殺虫剤・化学薬品の使用禁止、高地農業での傾斜

地農業土地開発技術の振興、CARPの迅速な施行、農業保護地域ネットワークの構築

大気：非汚染的対策に対する優遇措置・工場公害に対する罰則、無鉛ガソリン利用の促進・車両及び工場に対する排出基準の強制

廃棄物：適正敷地選定や環境上安全な処理について地方政府の支援、ゴミ減量化・再利用・処理の為の適正収集等についての啓蒙

社会・経済次元：人口計画の重要な要素として家族計画と価値観形成を促進、生産へのインプットとしての環境的・自然的資源の価格付けの見直しと実践、プロジェクト認可における環境評価の厳格な実施、環境に係わる消費パターンやライフスタイルについての啓蒙、公害を阻止するための排出料金・使用者負担等の経済的手段、有害材料の輸入禁止

開発行政と財政：上記の地方開発推進の為に地方開発行政と財政を強化しなければならない。ミンダナオ経済開発協議会(MEDCo)は大統領令512により創設され4リージョンとARMMの総合調整を行う。ミンダナオ開発会社、ミンダナオ電力会社、空港公社等の新設が提案された。

## 2-3 リージョンXI(南部ミンダナオ)

### 2-3-1 開発概況

2-2-1のミンダナオの開発概況で記したように、リージョンXIはミンダナオ島のリージョンの中で最大の地域社会・経済の拠点となっている。リージョンXI(南部ミンダナオ)はジェネラル・サントスを中心とするソクサージェン地域とダバオ市を中心とするダバオ湾岸地域から成り、この二つの地域が車の両輪のように当リージョンの発展を押し上げている。リージョンXI全体の諸社会経済指標は他のリージョンとの比較で上記のミンダナオ開発概況に示してあるが、人口は500万人、地域総生産489億ペソでミンダナオで最も大きい。また経済成長率も5.1%(1995)と国の成長率を上回っている。Per/Capitaで見てもミンダナオの平均を上回るが年平均増加率(1990-1995)はマイナス(-2.3%)である。これは高い経済発展にもかかわらず人口増加が大きい為である。セクター別生産額構成で見れば農林・水産38.1%、工業25.7%、サービス36.25%とセクター別にバランスしているが工業は年率9.16%(1995)と高い成長率を示し当該地域の工業化の進展を窺わせる。

先に述べたようにジェネラル・サントス地域はミンダナオ開発のモデル的経済開発ゾーンとして最近の発展が著しく、DIDP地域は常にこれと対比される。しかしながらダバオ市は都市規模(ジェネラル・サントス市の6倍の面積、3倍の人口規模)・経済産業規模で遥かに凌駕しており、その開発ポテンシャルから見ればミンダナオ及びリージョンXIの地域開発拠点として発展するものと考えられる。

### 2-3-2 南部ミンダナオ中期開発計画及び更新計画

中期国家開発計画の更新に伴い南部ミンダナオ中期開発計画も更新された。特にミンダナオでは1993年以降新たな変化がありこれを考慮して更新された。新たな変化・開発とはフラグシップ・プログラム、社会改革アジェンダ(SRA)、技術教育開発公社(TESDA)、国際環境(WTO)、BIMP-EAGA等である。

開発課題 : 貧困、環境悪化、不十分な社会サービスとインフラ、開発行政、公共秩序と安全  
開発目的 : 貧困率・失業率の縮小、エコロジー改良、基礎的社会サービスの拡充、主要インフラ・ユーティリティの拡大・維持、開発行政の強化、公共秩序と安全の維持  
開発目標 : 人口増加率 2.0%、GRDP 成長率 10.3% (農業 4.6%、工業 13.7%、サービス 13.5%)、雇用率 94% 1988 年 (92.1% 1994 年)、貧困率 30% 1998 年 (46.8% 1991 年)  
開発戦略 : ミンダナオ・フレームワーク・プランを受けて、南部ミンダナオ開発戦略が設定された。

根幹戦略 : 地方アグリ・インダストリー開発 (CAID) と EAGA 開発

地域構造戦略 : 二つの総合開発ゾーンと二極構造 (Bipolar) 及び分散戦略 総合開発ゾーン: ダバオ総合開発地域 (DIDP) とソクサージェン地域 2極: ダバオ市地域アグリ・インダストリーセンター (RAIC) とジェネラル・サントス市工業団地 分散 : 11 の州アグリ・インダストリーセンター (PAICs) このセンターは農産物供給で RAIC と連携する。

人間開発戦略 : 社会改善アジェンダ (SRA) の特定ターゲットへの集中政策 (農地改革村、優先的湾・湖の沿岸定住地、都市地域、再定住地、成長センター、災害犠牲者再定住地、CADC・CIDS エリア)、MBN アプローチ (最低基礎的ニーズ)、健康・栄養・家族計画の分野ではプライマリ・ヘルス・ケア政策、教育では“全てに教育”政策、また“ジェンダーと開発政策”を進める。

アグリ・インダストリー戦略 : リージョン XI は国内・輸出需要を満たすため、コマーシャル作物の主要産地、農業貿易センターと成る。主産地生産アプローチ (Key Production Area Approach) が継続される。工業との連携を強化して農民・漁民に代替生活手段を与える。このための対策は、農民への金融の拡大、灌漑のリハビリ・水域の植林、インフラ優先 (主産地へのファーム・トゥ・マーケット道路、灌漑、乾燥倉庫、港)、地方食料安全・環境協議会の設立、コテージ・インダストリー、村落軽工業、観光等の農業以外の仕事の振興、LGUs による PAIC エリアにおける優先産業開発の開始、工業開発と適合した技術開発・商業化、民間の科学研究・生産開発への参加、厳格な環境影響評価の実施、廃棄物管理と処分システムの確立、地方行政機関による土地利用計画、省エネ対策・環境容量についての啓蒙、EAGA 諸国とのインターネット

インフラストラクチャー戦略 : 政府予算の制約を考慮して戦略的に整備されねばならない。道路優先順位 1 維持、2 修復、3 改良・建設、民間の電話整備への投資拡大、大規模人口地帯・高農業ポテンシャル地域へのファイブ・ポートの優先整備、灌漑は共同灌漑等の短期完成プロジェクトに絞り、大規模プロジェクトは水力発電・漁業等の目的がある時のみ、水供給は人口集積・密度の高い地域を優先、学校建設は小学校の無いバランガイ、高校の無い町が優先、LGUs は独立発電所として自前で発電する。

開発行政 : 当地域は開発の為の行政的環境整備は比較的うまく行っているが更に改善すべきことは多い。省内・省間での機能の能率化、会計検査の効果化により行政手続き・手順の簡素化、BIMP-EAGA 発展の為の経済外交の振興と制度その他実施機構の維持・向上、BIMP-EAGA 内の物・サービス・人の交流の行政的・手続き的阻害要因の排除、BIMP-EAGA の主要地域での領事館の設立、多年度財政計画システムの導入、政府機関の予算提案の策定・レビュー・統合化の質を改善するための機構の導入、プロジェクト優先付けのシステムと方法の見直し、地方プロジェクト・モニタリング評価委員会の能力の拡充、地域開発基金の創設、LGUs 間の協調と協力の強化、開発への民間参加の持続的促進、公共秩序と安全の維持の為の制度強化と能力強化プログラム (Capability building program) による行政的公正、能力強化プログラムによる災害協議委員会の強化、政府プログラム・実績につい

てのメディアへの情報解放、政府機関及び民間相互の情報ネットワークの活用、統計情報システムの見直し。

## 2-4 地方分権化の現状と今後の展望

### 2-4-1 「地方自治法」の意義

1991年の「地方自治法」(Local Government Code, LGC)の施行以来、同国はそれまでの中央集権の色彩が強かった地方開発を、地方政府に対する中央政府の行財政権限の委譲を通じて、地方主体の地方開発体制に移行した。同法の施行による地方分権化の目的には、

- 1) 過度の中央集権制による中央官庁の官僚主義的弊害を克服し、国と地方における開発の効率化を図る
- 2) 地方レベルでの資源配分の効率化と調整能力の増大
- 3) 中央政府から地方への資源配分の増加による地域格差の是正
- 4) 地方住民の開発への参加意識の高揚

等があげられる。

こうした革新的、野心的ともいえる「地方自治法」の施行に至った背景には、開発独裁、権威主義体制、クローニーによる経済独占といったマルコス政権が1986年のエドサ革命により崩壊し、民主化を掲げたアキノ政権が登場したことにより、それまでの過度の中央集権的な開発独裁から、地方分権の推進による民主的な地方開発への渴望があったといえる。それまでの地方開発は国家投資計画にもみられたようにNCRといった都市部への投資の集中、政治的意図による恣意的、非効率な地方投資が恒常的に行われてきた結果、非効率な資源の利用と共に地方開発上も首都圏等の開発に比べ極端な格差が生じていたといえる。また、地方政府におけるあらゆる行政執行は中央政府の認可を受ける必要があるなど地方自治の形骸化と過度の中央集権は地方開発の大きな障害となっていた。

また、1991年の「地方自治法」の施行は地方財政の観点からも大きな変革をもたらした。「地方自治法」は財政支出に関わる明確な責任を地方自治体に担わせると共に、一定の範囲で徴税権を認めることにより独自財源の確保を認め、国税の割り当てを確実に受け取れるようにした内国歳入割当(Internal Revenue Allotment, IRA)の配分規定を定めている。また、地方開発に使われる財源として地方債の発行を一定の条件下で認めており、借款の調達についても部分的にその規制を緩和している。

### 2-4-2 地方開発行政

#### 1. 自治体の構成

同国の地方自治制度における地方自治体構成は表2.4.1の通りである。これら地方自治体として区分される行政体とは別に16の地域(Region)が設けられているが、これらの地域区分は「地方自治法」

における行政区分とは異なる。地方自治行政における行政監督権限は、州－市・郡庁－バラングイのヒエラルキカルな構成となっているが、市政府のなかで都市化の程度、財政規模等により指定された“Highly Urbanized City, HUC”及び “Independent Component City, ICC”は州政府の監督を受けない特別独立市となっている。最小自治行政体であるバラングイは市及び郡庁を構成する日本の「町内会」組織に当たるものであるが、その長、及びバラングイ議会の議員も選挙による被選挙民であることは大きく異なるところである。

表 2.4.1 自治体の構成

自治体の種類	NO.
州 (Province)	77
市 (City)	67
Highly Urbanized City (HUC)	24
Independent Component City (ICC)	4
Component City (CC)	39
郡庁 (Municipality)	1540
バラングイ (Barangay)	41932

## 2. 「地方自治法」(1991)による権限移譲

「地方自治法」の最も重要な部分は、それまで中央政府及び、中央官庁に付与されていた行政機能、責任、規制・監督権限の地方政府への委譲 (Devolution) である。それまで多くの行政機能、サービスの提供が中央政府によってなされてきたが、「地方自治法」の施行により多くの行政機能、権限が地方政府に委譲された。これらの権限移譲により最も大きな影響を受けた分野はインフラ整備、保健・医療サービス、農業普及事業、教育施設、観光開発等の分野と言われており、権限の移譲に伴い多くの中央政府職員、及び物的資産が地方政府に移管された。また、地方財政の財源となる一定の徴税権を地方自治体に移譲することにより、地方政府独自の財源の確保が保証されている。

移譲された行政機能、権限の中で特筆に値するものは以下の通りである。

### \* 課税権限の移譲

国に与えられている徴税権を逸脱しない範囲で一定の徴税権が各自治体に対して委譲された。

### \* 行政権限の移譲

農業開発、保健・医療、公共事業サービス分野でそれまでそれぞれのセクター官庁が受け持っていた事業が人員、機材を含めて地方自治体に移管された。

### \* 開発資金調達の方法拡大

地方債の発行や中央政府、民間金融機関からの開発ローンの取得などの債務負担行為が一定の許可の元で認められた。特にグラントの取得についてはドナーに対する直接的なアクセスが認められることとなった。

### \* 地方交付金 (IRA) の機械的配分

予算管理省を通じて配分される IRA の配分が人口、行政エリアなどにより一義的に規定されたことにより、自治体財源の確保が担保された。

#### \*開発計画策定の義務付け

地方開発のための地方開発協議会を設け開発計画の策定がバランガイレベルから州政府まで義務づけられた。

### 3. 地方開発計画の制度

これまでの同国の地方開発は、計画官庁である NEDA、及び事業実施官庁の主導による国家事業の地方展開として実施されてきた。地方自治体の開発事業の計画、実施は一部の大都市を除いて小規模な事業に限られ、大規模な地方開発プロジェクトは中央政府の強い統制下にあったといえる。地方開発都市は、地域ごとに設置されている地域開発審議会(Regional Development Council,RDC)において策定される当該地域の地域開発計画(Regional Development Plan,RDP)から、中期開発計画(MTPDP)にまとめられるなかで、それぞれの投資計画に基づき中央主導の元で実施されてきた。

新たな「地方自治法」による地方開発制度はこうした地域開発審議会を核としたこれまでの中央指導による地方開発体制から、地方自治体のより明確な開発への主体的参加を求めている点で大きく異なることに注目しなければならない。同法は、地方自治制度に基づくバランガイ、郡庁、市、州のそれぞれに地方開発協議会 (Local Development Council,LDCs) を設置し、開発行政に対する地元自治体の責任を明確化すると共に、地方資源の主体的管理を可能ならしめた。これらの地方開発協議会に開発計画の審議、策定を義務づけることにより、住民、自治体主導の元で地方開発が実施されることとなった。これら地方開発計画は各行政レベルを通じてのヒエラルキカルな統合の上で州開発計画、又は特別独立市の開発計画に取りまとめられた後、上位計画である地域開発計画(RDP)に取りまとめられることとなった。

### 4. 開発行政の課題

1991年の「地方自治法」の施行は、制度が描く理想的、野心的な開発行政の意図とは裏腹に、飛躍的に増大した地方自治体の業務と機能に直面して、制度が求める地方開発行政への早急な対応と整備を多く自治体に課すこととなった。開発行政が抱える問題点には以下のようなものがある。

#### (1) 地方自治体構成の適否

現状において地方自治体として数えられる行政体は州、市、郡庁、バランガイを含めてその数は4万数千に及んでいる。同国の地方自治の歴史と文化は各々の自治体における政治的閉鎖社会を形成する傾向が強く、地域ボスによる政治、経済の私物化の弊害が強く言われている。こうした政治環境下で、地方開発を広域的観点から効率的に実施するためには自治体構成をスリム化して開発への弊害を取り除く必要がある。

#### (2) 地方自治体の実施能力

「地方自治法」で制度化された地方開発を適切に実施するために求められる自治体の実施能力は分権化の中で徐々に形成される、といった議論もあるが、現状においては行政、財政の分野における自治行政の実施能力がすべての地方自治体において十分に形成されている状況とはいえない。地方分権化による地方開発を促進するためには、民主化された政治風土の中で、適切な行政実施能力を育成するための莫大な努力が必要となっている。



### (3) 権限移譲の適否

それまで中央政府が行ってきた業務、機能の多くが地方自治体に委譲されたが、それら権限移譲された業務、機能の中には保健・医療分野における権限移譲のように地方自治体の実施能力から委譲自体に疑問がもたれるものもある。また、開発事業の立案過程においても地方におけるミクロレベルと、地域全体、もしくは国家開発におけるマクロ計画との整合性をとるうえで、権限移譲がこの調整を困難にしている面もある。また、ダバオ市等にみられるように先進大都市の委譲された権限の行使は明らかに弱小自治体の開発ペースを遥かにしのぐものがあり、自治体間の行財政能力格差の拡大を招いている。

### (4) 地方開発協議会(LDCs)の実状

地方開発協議会(LDCs)の組織整備の実体は「地方自治法」施行後、著しく形骸化しており、実施能力、地方独自財源の不足から、地方計画相互の調整、及び上位計画である地域計画への統合は著しく形骸化しており、自治体独自財源による開発投資は各自治体の短期的、恣意的な判断により、国家機関との広域的な地域開発、又は国家開発上の調整を経ないまま実施されているのが現状といえる。

### (5) 国家計画との調整メカニズム

地方自治体の開発計画が LDC 内の上位の計画に反映されず、一方、RDC において策定される開発投資計画は中央実施官庁の地方事務所の事業投資計画といった地方政府の自主性を無視したものとなっている。更に、中央実施官庁の事業計画の実体は地方事務所の投資事業でさえも本省レベルで策定される傾向が強く残っており、開発行政における地方、及び地方自治体と国家開発との調整機能は確としたメカニズムのない中で漠然と行われているに過ぎないと言える。

## 2-4-3 地方開発財政

### 1. 内国歳入割当(Internal Revenue Allotment, IRA)

「地方自治法」は原則的に国税収入の40%を一定の配分規定に従って地方自治体に配分するよう規定している。1991年の施行以来、段階的に引き上げられたものであり、その配分は自治体の行政面積、人口等によって一義的に定められる。IRAの財源配分はその歳出について特に規定はないが、配分額の20%は開発事業(Development Fund)に支出するよう規定されている。「地方自治法」(Book II, Section 285.)に規定された配分規定は表2.4.2の通りであり、自治体の主要財源となっている。

表2.4.2 IRAの配分 (1995年現在)

自治体	NO.	配分率(%)	人口加味率(%)	面積加味率(%)	均等配分率(%)
州	77	23	50	25	25
市	67	23	50	25	25
郡庁	1540	34	50	25	25
バランガイ	41932	20	60		40

IRAの配分の現状は規定からみられるように人口の比較的多く行政域の比較的狭い「市」が配分上有利であり、面積も広く多くの郡庁を傘下に抱える「州」政府の配分は相対的に低くなっている。

また、IRA のこうした配分方式は地域の開発ニーズに即した資源配分を考慮していないことから、公共投資の地域的偏りと同様に人口の集中する NCR, Region III, IV に偏った画一的な地域配分結果となっている。

## 2. 地方税

地方自治体の独自財源として「地方自治法」が規定している地方税の主なものは不動産税(Real Property Tax,RPT)、特許・事業税(License and Business Tax,LBT)、その他の税に区分される。中でも RPT、及び LBT は地方自治体が徴税を認められている主要な税源であり、これらの税の徴税如何によって当該自治体の税収は大きく左右される。

### (1) 不動産税(RPT)

「地方自治法」のもとでは、州は不動産に対して査定価格の 1%を超えない率の不動産税を課すことが出来る。市及びマニラ首都圏の郡庁においては 2%を超えない率で課税することが出来、その税収は一般会計(General Fund,GF)に繰り込まれる。また、これとは別に州、市、及びマニラ首都圏の郡庁は 1.0%の不動産税を課税できることとなっており、特別教育会計(Special Education Fund,GF)への特定財源となる。一般会計の税収配分は RPT 収入の 35%は州に、40%は所在する郡庁に、25%はバラングイに配分される。市が課税した RPT 収入の 70%は市に、残りの 30%の内 50%は所在地のバラングイへ、50%は市内の他のバラングイへ均等配分される。

### (2) 特許及び事業税(LBT)

州に与えられている LBT 税源には、不動産取引税、印刷出版税、フランチャイズ税、砂利採掘税、専門職業税、娯楽税、輸送税等であり、郡庁に与えられた LBT 税源は事業税、漁業税、その他の手数料税収が認められている。市は州、郡庁に与えられているこれらすべての LBT 徴税権が認められている。バラングイにおいてもいくつかの手数料課税が認められている。

## 3. 借款の調達及び起債権限

地方自治体の財源として国内外からローン、信用供与の獲得についても「地方自治法」は自治体に多くの裁量権を与えている。(LGC Book II, Section297) 特に国内金融機関からの借款の調達については地方自治体に対して直接的な交渉を認め、その制限は大幅に緩和された。また資金ソースの中でも特殊な ODA についてもグラントに限り地方自治体の直接交渉を認めている。(LGC Book I, Section23)しかしながら、借款調達、起債のいずれにおいても繁雑な事務手続き、自治体の財政的信用度、法的情報の不足等からこれらの資金調達が可能とされるのは一部先進都市に限られているのが現状である。「地方自治法」の施行以前に起債の発行による開発資金の調達を実施した自治体はセブ州のみであり、施行後もレガスピ市、イリガン市、ケソン市、ナガ市などで実施されたが全国地方自治体の数からもごく希なケースといえる。

## 4. 地方自治体の財政収入の課題

「地方自治法」の施行による内国歳入割当、徴税権限、地方債の起債権限の改革により、全国の地方自治体の財政収入は一般的には改善されたと言われている。しかしながら、内国歳入割当にみられるように、人口と面積といった条件による一義的な配分規定は地方自治体の地域格差是正のた

めの開発ニーズにおける特殊性を考慮できず、財源の政策的、効率的配分とはいえない面が指摘できる。また、徴税権限を活用して財源の拡大を図るためには、地方自治体の徴税に関わる税務、徴税システムのより一層の整備が必要である。拡大された不動産への課税権限も適切な課税評価により必要な課税がなされている自治体は極めて少ない。特に「州」の徴税への取り組みが立ち後れている。課税の取り組みが立ち遅れていることから、多くの自治体はその財源を内国歳入割当に負っている。

表 2.4.3 は 1995 年における地方自治体の財政収入を地域毎にまとめたものである。人口の集中する NCR, 第 IV 地域に位置する地方自治体の IRA の配分総額は他の地域に比して大きいこと、NCR を除く他地域の自治体の税収にしめる IRA の比率が 70% を越えていることはマニラ首都圏以外の自治体はその歳入を IRA に大きく依存している現状を示している。リージョン XI では 83% に達している。表 2.4.4 は全国自治体の中で市、州の財政収入を示したものである。市に指定された自治体の方が、一般的には州自治体よりも歳入規模も大きくなっており、IRA を除いた州自治体の地方税収入の立ち後れも指摘できる。また、郡庁自治体はマニラ首都圏などの一部自治体を除いて歳入規模はさらに低くなっており、特に第 5、6 クラスの郡庁においては税収における IRA の割合が 90% を越える。リージョン XI についてみると、ダバオ市及びジェネラルサントス市は 60-62%、その他の州は 72-92% となっており、経済開発の遅れている州の IRA 依存率が著しく高い。

表 2-4-3 地域別地方自治体歳入 (1995)

(,000)

	ALLIQUOUS	NONR	CAR	IN	IV	V
Tax Revenue	58,937,259	12,320,067	1,409,742	2,380,841	4,423,022	7,997,190
OMA Rev.	5,575,383	1,365,611	81,960	145,451	637,153	730,827
Capital	64,849	12,420	1,524	1,943	26,074	15,069
Grant Aid	735,526	360,976	3,213	5,547	60,968	89,435
Extra Receipt	34,310	10,773	369	299	358	9,423
Borrowing	2,492,722	1,230,510	3,500	90,704	202,892	317,447
Total Income	67,840,049	15,300,357	1,500,308	2,624,765	5,350,467	9,159,391
(IRA)	41,961,182	3,709,635	1,241,331	2,099,315	3,485,352	5,947,168
IRA/Tax Revn.	71%	30%	88%	88%	79%	74%
						84%
						82%

	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII
Tax Revenue	4,020,610	2,910,410	2,129,290	3,925,847	4,108,915	1,846,937	1,128,160
OMA Rev.	499,050	150,158	182,617	372,274	454,096	125,219	12,338
Capital	1,383	303	1,192	2,429	700	265	11
Grant Aid	4,829	12,360	18,250	46,059	31,930	5,678	542
Extra Receipt	510	456	515	884	4,827	830	13
Borrowing	25,000	16,500	6,500	192,407	60,975	86,371	13,368
Total Income	4,551,382	3,090,187	2,338,364	4,539,900	4,661,443	2,065,300	1,154,432
(IRA)	3,165,169	2,659,765	1,962,610	3,406,719	3,390,136	1,532,506	1,098,990
IRA/Tax Revn.	79%	91%	92%	87%	83%	83%	97%

表 2.4.4 地方自治体の歳入 (市、州) 1995 (,000)

NO.1

自治体名	地域	STATUS	歳入		内訳			贈与
			1995年	地方税	IRA	借入		
Kalookan	NCR	HUC	921,122	406,835	338,258	176,029		
Makati	NCR	HUC	2,369,591	1,957,527	262,041	150,000	23	
Mandaluyong	NCR	HUC	1,081,596	536,192	151,425	393,979		
Manila	NCR	HUC	2,302,635	1,587,397	715,238			
Muntinlupa	NCR	HUC	481,073	312,737	78,471	89,865		
Pasay	NCR	HUC	553,964	343,220	191,848	18,896		
Pasig	NCR	HUC	1,043,701	825,047	218,654			
Quezon	NCR	HUC	2,617,287	1,862,149	755,138			
Dugpan	I	CC	166,012	66,239	99,773			
Laoag	I	CC	136,283	36,975	94,160		5,148	
San Carlos	I	CC	135,965	14,533	121,432			
Baguio	CAR	HUC	234,718	109,673	125,045			
Santiago	II	ICC	162,250	26,276	120,974	15,000		
Angeles	III	HUC	247,538	65,977	153,286	17,000	11,275	
Cabanatuan	III	HUC	271,702	50,062	160,613	60,827	200	
Olongapo	III	HUC	398,393	254,064	144,279		50	
Palayan	III	CC	69,528	946	68,582			
San Jose	III	CC	151,824	22,073	107,188	263	22,300	
Batangas	IV	CC	367,916	205,907	162,009			
Cavite	IV	CC	107,624	24,986	82,638			
Lipa	IV	CC	203,816	63,340	140,476			
Lucena	IV	HUC	172,570	51,306	115,338		5,926	
Puerto Princesa	IV	CC	469,483	37,120	409,870		22,493	
San Pablo	IV	CC	348,573	55,760	142,813	150,000		
Tagaytay	IV	CC	110,659	40,023	62,636	800	7,200	
Trece Martirez	IV	CC	87,611	20,465	56,658	10,488		
Iriga	V	CC	109,189	15,827	93,362			
Legazpi	V	CC	190,477	45,467	117,220	27,790		
Naga	V	ICC	172,995	67,696	104,821		478	
Bacolod	VI	HUC	381,317	167,808	213,509			
Bago	VI	CC	215,849	36,350	155,442	24,057		
Cadiz	VI	CC	204,227	21,931	172,430	9,845	21	
Iloilo	VI	HUC	357,781	180,941	176,840			
La Carlota	VI	CC	107,442	19,411	88,031			
Roxas	VI	CC	141,748	39,724	100,324		1,700	
San Carlos	VI	CC	195,158	37,504	157,654			
Silay	VI	CC	154,511	27,770	117,722	8,719	300	
Bais	VII	CC	128,678	11,108	117,559		11	
Canlaon	VII	CC	94,249	10,006	84,243			
Cebu	VII	HUC	906,870	557,424	349,446			
Danao	VII	CC	111,549	21,137	90,412			
Dumaguete	VII	CC	130,790	45,637	85,148		5	
Lapu-lapu	VII	CC	196,839	87,396	109,443			
Mandaue	VII	HUC	196,015	78,125	117,890			
Tagbilaran	VII	CC	129,092	40,619	73,473	15,000		
Treco	VII	CC	148,117	26,402	121,715			
Calbayog	VIII	CC	254,136	21,447	232,684		5	

表 2.4.4 地方自治体の歳入 (市、州) 1995

NO.2

自治体名	地域	STATUS	歳入		内訳		
			1995年	地方税	IRA	借款	贈与
Ormoc	VIII	ICC	230,962	38,276	192,652		34
Tacloban	VIII	CC	188,669	69,432	119,237		
Dapitan	IX	CC	0	0	0		
Dipolog	IX	CC	137,959	21,601	116,358		
Pagadian	IX	CC	187,902	39,917	147,985		
Zamboanga	IX	HUC	577,789	131,337	446,452		
Butuan	XIII	HUC	389,376	80,114	269,262	40,000	
Cagayan de Oro	X	HUC	479,354	230,751	248,603		
Gingoog	X	CC	163,679	22,841	140,838		
Oroquieta	X	CC	108,364	11,791	96,573		
Ozamis	X	CC	232,820	37,029	109,366	64,975	21,450
Surigao	X	CC	154,545	30,885	123,660		
Tangub	X	CC	113,328	7,331	80,352	25,645	
Davao	XI	HUC	1,201,890	455,936	745,954		
General Santos	XI	HUC	360,612	146,173	214,438		1
Cotabato	XII	ICC	432,891	207,578	206,692	18,000	621
Iligan	XII	HUC	168,212	41,889	122,733	3,500	90
Marawi	XII	CC	91,967	6,918	85,049		
MMA	NCR	SPG	1,406,653	265,735	531,807	249,850	359,261
Ilocos Norte	I	PG	183,252	46,353	136,899		
Ilocos Sur	I	PG	456,519	312,501	144,018		
La Union	I	PG	218,394	88,540	129,854		
Pangasinan	I	PG	403,020	40,946	362,074		
Abra	CAR	PG	106,939	2,205	104,734		
Benguet	CAR	PG	144,411	30,931	113,480		
Ifugao	CAR	PG	91,821	3,570	88,251		
Karinga	CAR	PG	30,611	603	30,008		
Apayao	CAR	PG	18,473	286	18,187		
Mountain Province	CAR	PG	92,710	9,076	83,634		
Batanes	II	PG	50,167	2,870	47,297		
Cagayan	II	PG	297,255	42,249	241,006	14,000	
Isabela	II	PG	310,925	24,321	286,604		
Nueva Vizcaya	II	PG	151,578	9,623	127,106	14,000	849
Quirino	II	PG	150,677	103,368	40,809	6,500	
Bataan	III	PG	252,501	113,332	124,920	14,249	
Bulacan	III	PG	425,328	148,271	268,032	9,025	
Nueva Ecija	III	PG	330,668	34,721	255,194	40,000	753
Panpanga	III	PG	284,903	46,946	225,957		12,000
Tarlac	III	PG	235,935	54,393	179,968		1,574
Zambales	III	PG	147,097	17,782	129,315		
Aurora	IV	PG	94,779	8,001	86,778		
Batangas	IV	PG	410,541	140,567	267,073		2,901
Cavite	IV	PG	365,049	160,181	204,868		
Laguna	IV	PG	456,171	203,785	252,386		
Marinduque	IV	PG	96,895	16,811	80,084		
Occidental Mindoro	IV	PG	147,842	12,776	135,066		
Oriental Mindoro	IV	PG	203,654	24,171	153,468	26,015	
Palawan	IV	PG	386,631	17,808	338,377	28,550	1,896

表 2.4.4 地方自治体の歳入 (市、州) 1995

NO. 3

自治体名	地域	STATUS	歳入		内訳		
			1995年	地方税	IRA	借款	贈与
Quezon	IV	PG	333,282	38,774	294,508		
Rizal	IV	PG	313,682	141,922	171,546		214
Romblon	IV	PG	100,728	7,649	91,004		2,075
Albay	V	PG	244,484	39,536	196,046		8,902
Camarines Norte	V	PG	131,721	15,516	116,205		
Camarines Sur	V	PG	266,755	25,582	241,173		
Catanduanes	V	PG	103,417	8,572	94,845		
Sorsogon	V	PG	156,491	20,949	135,542		
Aklan	VI	PG	127,325	15,042	112,283		
Antique	VI	PG	138,681	15,263	123,418		
Cariz	VI	PG	162,663	14,599	148,064		
Guimaras	VI	PG	81,497	6,228	59,010	16,259	
Iloilo	VI	PG	329,013	66,064	262,949		
Negros Occidental	VI	PG	553,605	102,354	355,702	95,549	
Bohol	VII	PG	316,882	114,748	202,134		
Cebu	VII	PG	426,954	97,551	329,403		
Negros Oriental	VII	PG	248,350	26,446	221,904		
Siquijor	VII	PG	59,918	3,129	56,789		
Biliran	VIII	PG	80,114	3,701	61,413	15,000	
Eastern Samar	VIII	PG	143,681	7,594	136,087		
Leyte	VIII	PG	334,637	62,975	271,063		599
Northern Samar	VIII	PG	143,468	4,422	136,425		2,621
Samar	VIII	PG	175,458	6,875	166,411		2,172
Southern Leyte	VIII	PG	114,140	8,555	105,585		
Basilan	IX	PG	87,476	835	86,071		570
Zamboanga del Nor	IX	PG	238,958	30,392	208,566		
Zamboanga del Sur	IX	PG	284,889	26,844	257,562		483
Agusan del Norte	X	PG	119,700	13,206	106,494		
Agusan del Sur	X	PG	278,494	22,847	202,754	52,893	
Bukidon	X	PG	279,794	46,799	232,995		
Camiguin	X	PG	57,197	3,087	54,110		
Misamis Occidenta	X	PG	135,486	11,012	124,474		
Misamis Oriental	X	PG	239,954	98,898	137,859		3,197
Surigao del Norte	X	PG	162,138	19,931	142,207		
Davao del Norte	XI	PG	341,359	87,340	247,245		6,774
Davao del Sur	XI	PG	181,122	19,750	161,179		193
Davao Oriental	XI	PG	161,960	13,136	148,251		573
South Cotabato	XI	PG	189,314	23,621	146,378	10,990	8,325
Surigaov del Sur	XI	PG	193,831	21,337	172,494		
Sarangani	XI	PG	129,444	15,929	111,368		2,147
Lanao del Norte	XII	PG	135,498	11,689	123,809		
North Cotabato	XII	PG	224,106	29,498	194,608		
Sultan Kudarat	XII	PG	158,841	12,760	146,081		
Maguindanao	ARMN	PG	180,209	3,507	176,702		
Lanao del Sur	ARMN	PG	162,832	4,500	158,332		
Sulu	ARMN	PG	105,434	1,229	104,205		
Tawi-Tawi	ARMN	PG	0	0	0		